Yokohama
Artsite
2016 Report

横浜市地域文化サポート事業　ヨコハマアートサイト2016実施レポート　2017年3月31日発行

URL: http://www.y-artsite.org/　TwitterID: @Y_Artsite　Facebook: www.facebook.com/yokohama.artsite

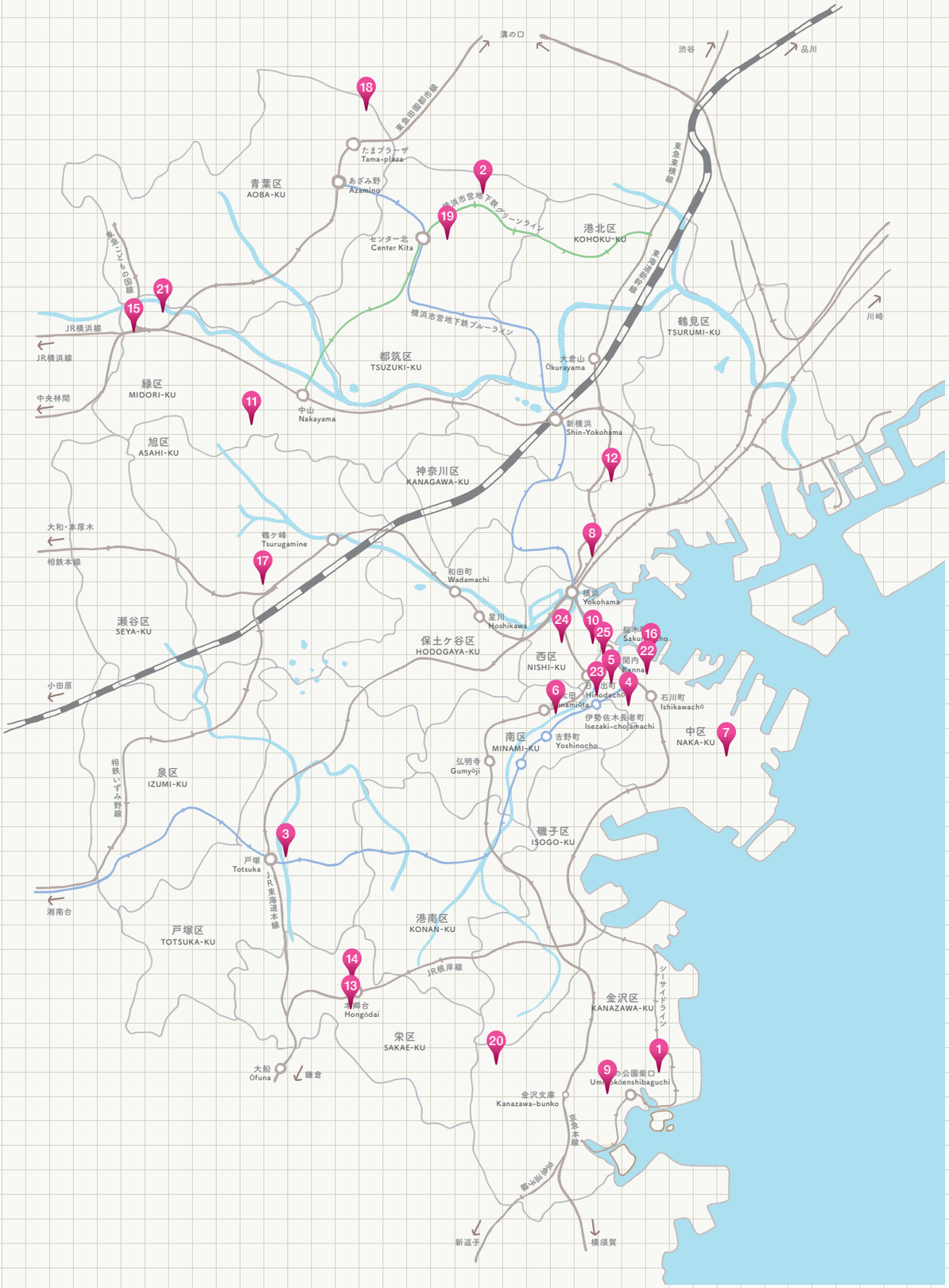
発行：ヨコハマアートサイト事務局（NPO法人STスポット横浜、横浜市文化観光局、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）
編集：ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜　デザイン：相澤事務所　印刷・製本：合資会社　三島印刷所

ヨコハマアートサイト事務局　〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-15 横浜ＳＴビル 208（NPO法人STスポット横浜 地域連携事業部 内）
TEL：045-325-0410　FAX：045-325-0414　MAIL:office@y-artsite.org

ヨコハマアートサイト

２０１６　実施レポート

地域のアート活動を
応援します



目次

CONTENTS

01 CONTENTS

02 INTRODUCTION

03 OFFERING CIRCULAR

REPORT（団体名50音順）

04 1 アーティストネットワーク＋コンパス
会社まるごとギャラリー2016

06 2 特定非営利活動法人アーモンドコミュニティネットワーク
アーモンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト

08 3 認定NPO法人あっちこっち
子どものためのアート・音楽・ダンスをいっぺんに楽しむ
わくわくワークショップシリーズVol.5

10 4 居場所「カドベヤで過ごす火曜日」
カドベヤ・オープンDAY-つどおう・かたろう・つながろう

12 5 映像グループローポジション
映像グループローポジション10周年記念・
特集上映「ハマのドキュメンタリー映画作家たち」

14 6 大岡川アートプロジェクト実行委員会
大岡川アートプロジェクト「光のぷろむなぁど2016」

16 7 NPO法人Offsite Dance Project
本牧アートプロジェクト2016

18 8 神奈川区魅力さかせ隊
みんなのトンネルプロジェクト

20 9 金沢文庫芸術祭実行委員会
第18回金沢文庫芸術祭

22 10 紙芝居文化推進協議会
第17回手づくり紙芝居コンクール

24 11 GROUP創造と森の声
森ラボ2016「横浜の森美術展9」

26 12 ぐるぐるはためきアート展実行委員会
ぐるぐるはためきアート展　白楽・妙蓮寺編

28 13 さかえegaoプロジェクト
さかえegaoフェスティバル

30 14 さかえdeつながるアート
さかえdeつながるアート2016

32 15 新潮劇院/一般財団法人　日本京劇振興協会
こども京劇プロジェクト

34 16 特定非営利活動法人スローレーベル
SLOW ACADEMY 実践シリーズ&
ヨコハマ・パラトリエンナーレ準備連続講座

36 17 NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと
こころに響く打楽器作っちゃおう

38 18 たまプラ一座まちなかパフォーマンスプロジェクト
育ちあいフェスタ2016「BAMBOOOM（バンブーン）」

40 19 NPO法人都筑民家園管理運営委員会
都筑・遺跡公園・民家園アート月間2016

42 20 ひかるどうぶつえん実行委員会
よこはま夜のどうぶつえん
ナイト金沢ZOO「ひかるどうぶつえん2016」

44 21 NPO法人ぷかぷか
みんなでワークショップ

46 22 横浜栄写友
PICTURE THIS：横浜インターナショナルユースプロジェクト

48 23 横浜下町パラダイスまつり実行委員会
横浜下町パラダイスまつり2016＋
よこはま若葉町多文化映画祭2016

50 24 横浜・藤棚シネマ商店街実行委員会
横浜・藤棚シネマアートフェスタ2016

52 25 リビングアートネットワーク
障害者も健常者も分け隔てなく生きた芸術を目指して拡げよう
リビングアートネットワーク

54 ヨコハマアートサイト2016をふりかえる

60 季刊ヨコハマアートサイトバックナンバー

あいさつ

INTRODUCTION

横浜市地域文化サポート事業・ヨコハマアートサイト2016は、横浜が魅力的なまちになることを目指し、それぞれの地域でコミュニティの活性化や地域資源の活用に取り組む文化芸術事業の発信と地域課題の解決につなげる文化芸術活動をサポートする場です。2008年の事業開始から継続して、地域の魅力や特性を活かし、まちの活性化につながる、個性ある文化発信を続ける事業の支援を行っています。

今年度は2016年7月～2017年1月に開催する助成対象事業を公募し、25団体が事業を実施しました。地域内外でのにぎわいを創出するアートフェスティバル、さまざまな地域課題にアプローチするコミュニティアート、横浜の魅力を発信するアートプロジェクトの3つのテーマで各団体が取組を続け、多くのまちの人びとを巻き込んだ取組を行いました。

団体を支えるヨコハマアートサイト事務局は、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団・横浜市文化観光局・NPO法人STスポット横浜の協働で運営を行っています。横浜の地域文化を考える広報誌「季刊ヨコハマアートサイト」の刊行や、学びと交流の場「アートサイトラウンジ」の開催も定着してきました。

文化芸術の持つ可能性と、固有の地域が持つ奥深さ。二つが掛け合わされたバラエティ豊かな各団体の報告が、新たな取組を始める人々の力になることを願っています。

ヨコハマアートサイト事務局

募集案内

OFFERING CIRCULAR

ヨコハマアートサイト2016募集

公募概要

対象期間
2016年7月～2017年1月

対象となる活動
以下のいずれかのテーマを含み、横浜市内で実施される美術、映像、音楽、舞台芸術などにかかわる芸術文化活動。
※期間中、不特定多数が参加できる催しが含まれていること。

ART FESTIVAL
アートフェスティバル

アートを通じて地域資源の魅力を引き出し、開催地域内外のにぎわいを創出するもの

COMMUNITY ART
コミュニティアート

アートを通じて福祉・環境・街づくり・国際交流等における地域課題にアプローチするもの

ART PROJECT
アートプロジェクト

横浜の歴史や自然、景観などに着目し、アートを通じて横浜の魅力を市内外へ発信するもの

採択活動は1件につき10万円～200万円を助成します。
ただし、これまでに開催実績がある継続活動は原則、助成対象経費の2分の1以内の助成となります。
また、継続して助成する期間は、5年を目安とします。
（6年目も申請は可能ですが、採択の優先度は低くなります）

このほか助成以外に、季刊ヨコハマアートサイト、チラシ、ウェブサイト・実施レポートなどによるプロモーションや、参加団体間の交流（キックオフミーティング・研修・報告会など）をサポートします。

金沢区

「会社まるごと ギャラリー2016」

アーティストネットワーク+ コンパス

連絡先
URL　http://www.anc3434.com
E-mail　info@anc3434.com
TEL　045-785-3434
Facebook　http://www.facebook.com/ANC3434

団体紹介
代表：秋山桂子・ディレクター：湯浅佳子　プロデュース：田中清隆及び山陽印刷㈱社員有志、外部アドバイザーにて企画・運営。金沢区福浦の工場地域にて特有の地域性を生かした活動展開。不利を有利に利用しての発信、近隣協力工場の拡大を目指します。

川名マッキー「金沢区工場撮影散歩」ワークショップ参加者集合写真　玉家運輸倉庫にて 撮影者：川名マッキー

会期：2016年9月24日(土)～11月26日(土)
会場：山陽印刷株式会社、株式会社山装、鶴見金網株式会社、並木コミュニティハウス、株式会社横浜シーサイドライン、株式会社坪倉興業、有限会社協和タイヤ商会、玉家運輸倉庫株式会社、産業振興センター(PIAフェスタ会場)内
来場者数：166人

参加アーティスト：大島梢・川名マッキー・杉山孝貴・しばたあい・MIZUE・田中清隆・女子美術大学芸術学部(デザイン/工芸学科　プロダクトデザイン専攻　エコデザイングループ有志)

主催：アーティストネットワーク＋コンパス
共催：PIAフェスタ実行委員会(10月22日ワークショップ部分)
協賛：山陽印刷株式会社
後援：横浜市金沢区役所
協力：株式会社坪倉興業、株式会社山装、鶴見金網株式会社、株式会社南部フーズ、株式会社ニットー、株式会社横浜シーサイドライン、株式会社横浜八景島、玉家運輸倉庫株式会社、有限会社協和タイヤ商会、並木コミュニティハウス、・三恵印刷工業株式会社、女子美術大学デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻エコデザイングループ、関東学院大学 人間共生学部共生デザイン学科

実施イベント

7月29日(金)	ワークショップ 田中清隆「光と影の時計をつくろう」
9月24日(土)	オープニング　ギャラリーツアー
10月3日(月)	杉山孝貴　Makeover in a head
10月8日(土)	ワークショップ 川名マッキー「金沢区工場撮影散歩」
10月22日(土)	ワークショップ 杉山孝貴「くっつけるを学ぶ・アクセサリー、オブジェをつくろう」
10月22日(土)、11月12日(土)、11月15日(火)、11月26日(土)	ギャラリーツアー
11月12日(土)	アートサイトラウンジ
11月26日(土)	ワークショップ MIZUE「不織布を使ってフリンジチャームをつくろう」

廃材を魅力的な材料に 地域性を活かした美術展

金沢区福浦の工場地域を会場にした美術展とワークショップ。4回目の開催となる今回の展示タイトルは「It's worth it!～それだけの価値がある！～」。無駄なように見えて、全く無駄じゃない。無駄と思われることも、実は遠回りをしたようで近道だったということはよくあります。今回はそういった観点からアーティストに依頼をしました。

今回特徴的だった作品のひとつが杉山孝貴さんによる「makeover in a head」です。車輪のついた気球のような形状で、リヤカーとして引くこともできます。これも他の展示作品と同じく、周辺の工場から提供された廃材によって製作されました。さらに今年度は展示だけではなく、作家自身がこの作品を引いて歩くプロジェクトを実施しました。近隣の工場をまわって積み込んだ廃材を、黄金町で活動するアーティストのもとへ届けるというプロジェクトです。工場の中にあれば廃材でも、アーティストにとっては魅力的な材料です。もちろん物だけでなく、カメラマンにとっては工場内の風景も立派な地域資源。「それだけの価値がある！」と言うアーティストの姿は、会社・工場の人々にも影響を与えました。

ひとつの印刷会社からはじまったこの企画も少しずつ地域へと広がりを見せています。今年度は4つの会社・工場を展示空間とし、平日にはそれらをめぐるギャラリーツアーを開催しました。本会期前のワークショップでは集客に苦労することもありましたが、回を重ねることで少しずつ認知度も向上しています。さらに多くの地元企業が集まってのお祭り「PIAフェスタ」内で新たに始まったワークショップイベント「Aozora Factory」へ参加することができました。グラウンドには各工場によるワークショップブースが並び、親子連れを中心に多くの参加者が訪れました。今後もこうして、これまでに培ってきたネットワークを生かしながら福浦地域全体を盛り上げることができればと思います。

会社まるごとギャラリー2016
ギャラリーツアー風景
山陽印刷にて　撮影者：川名マッキー

川名マッキー「金沢区工場撮影散歩」
ワークショップ参加者集合写真
坪倉興業にて　撮影者：川名マッキー

MIZUE「不織布を使ってフリンジチャームをつくろう！」ワークショップ風景
山陽印刷にて

都筑区

アーモンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト

特定非営利活動法人
アーモンドコミュニティネットワーク
連絡先
URL https://almondcommunitynetwork.com
E-mail npoacn@gmail.com
TEL 045-594-7566
Facebook https://www.facebook.com/NPOAlmondCommunityNetwork/

団体紹介
主な活動は不登校、発達障がい、ひきこもり、貧困等の問題を抱えるこどもと青少年のために「傾聴」を学んだ地域住民による「居場所・相談・学習・アート活動」でのコミュニティでの伴走型支援。多様な凸凹な個性とこころを支え合い健やかに共に生きるための支援活動を行っています。

横浜市歴史博物館でのアートワークショップ

会期：2016年9月24日(土)～10月29日(土)
会場：ACN北山田拠点あ・る・く、横浜市歴史博物館研修室
来場者数：324人

参加アーティスト：Grimm Twins グリムトゥインズ（牧田あゆみ、バルバラ・ラーキ）、祓是清(松岡夏生)、星野拓、西村亜希子、Crayon Made Army クレヨンメイドアーミー（ファビオ・マルキ、フィリッポ・ミッチャレッリ、ミケーレ・ロテッリ）

主催：NPO法人アーモンド コミュニティ ネットワーク

実施イベント

9月24日(土)	アーティストブック制作 アートワークショップ
10月1日(土)	アーティストブック制作 アートワークショップ
10月15日(土)	アーティストブック制作 アートワークショップ
10月15日(土)	ショートムービーアニメーション上映会
10月28日(金)	参加アーティストたちとの交流会
10月28日(金)	アーティストブック制作 アートワークショップ
10月29日(土)	ショートムービーアニメーション上映会
9月24日(土)～10月29日(土)	アートワークショップの参加者制作作品の展示
9月24日(土)～10月29日(土)	アートワークショップの参加者制作作品の展示

一片の詩から生まれたアートが国境や年齢を越える

私たちはこれまで、生きづらさや生活面・学習面での困難を抱える青少年に対する伴走型支援活動を行ってきました。今回は「凸凹な個性、発達の偏りのある子どもと青少年のための活動」をテーマに、アートワークショップとアニメーションの制作・上映を行いました。

アートワークショップでは、法人会員で横浜市民のイタリア在住アーティストが中心となり制作を行いました。参加者は、文字やオリジナルのイラストが印刷された紙のパーツを自由に切り取り、組み合わせて小さな一冊の本「アーティストブック」を完成させます。はじめに想定していたよりも多くの参加者が集まりました。またアニメーションの原画で構成したDVD小冊子を無料配布し「無料では申し訳ないくらい」といったうれしい感想も寄せられました。作品はアートワークショップと上映会の会場で展示しました。

制作のきっかけは、もともと私たちの青少年支援事業の参加者であった2人によるコラボレーションです。1人の青年の書いたひきこもりの想いを現した一片の詩から着想を得て、海外在住のアーティストが原画を手掛け、横浜でアートワークショップを担当しました。もう1人の青年はアニメーターの道を歩き始めていて、アニメーションにすることができました。アーティストたちはスカイプ等を利用して、国境や年齢の壁を越えて、10分ほどのアニメーション作品「'Not afraid of the dark, not afraid of the light.'闇を恐れず光を恐れず」を完成させました。上映会の会場となったのは横浜市歴史博物館です。

今回、アートワークショップと上映会を開催する中で、青少年を支援したいと考える地元アーティストや他の青少年支援団体と出会うことができました。来年度の活動に向けて、幅広いネットワークを構築することが出来たことは大きな成果です。運営資金を得ることが難しいといった課題はありますが、青少年の自己表現の場として継続的な活動を目指していきます。

「闇を恐れず、光を恐れず」作品の小冊子とアニメーションDVD

アニメーション上映会で参加アーティスト達の紹介

小学生から80代が参加したアートワークショップ

アーティストBOOK制作中の参加者の手元

小学生・中学生・青年を対象に法人拠点でアニメーション上映会

戸塚区
中区

子どものためのアート・音楽・ダンスを いっぺんに楽しむわくわくワークショップ シリーズVol.5

子どもたちのポーズとタツヤ先生のダンスのコラボ　撮影者：平舘平

会期：2016年11月17日（木）～12月11日（日）
会場：学校法人三幸学園 横浜こども専門学校、ひらがな商店街アートスペース「と」、戸塚区民文化センターさくらプラザ
来場者数：143人

参加アーティスト：石河美和子、青木智哉、Cュタツヤ、中村明日香、小鹿紡

主催：認定NPO法人あっちこっち
共催：戸塚区民文化センターさくらプラザ
後援：横浜市教育委員会、横浜市アーツフェスティバル実行委員会　横浜音祭り2016パートナー事業
協力：学校法人三幸学園　横浜こども専門学校、ひらがな商店街アートスペース「と」

実施イベント

11月17日(木)	保育学校学生への講座
11月19日(土)	プレワークショップ
11月20日(日)	プレワークショップ
11月21日(月)	保育学校学生への講座
11月28日(月)	保育学校学生への講座
11月30日(水)	保育学校学生への講座
12月11日(日)	子どものためのアート・音楽・ダンスをいっぺんに楽しむわくわくワークショップ

認定NPO法人あっちこっち

連絡先
URL　http://acchicocchi.com
E-mail　info@acchicocchi.com
TEL　090-1261-1308
Facebook　https://www.facebook.com/npoacchicocchi/

団体紹介
アーティストと芸術を必要とする人々をつなげているアートプロデュース団体。多くの人々に芸術を身近に感じてもらうために、横浜市内の芸術施設や教育施設、介護施設をはじめ、様々な場所でコンサートやワークショップを開催しています。

サティをテーマに 未来を紡ぐ子どものためのアート体験

今年度は、音楽家エリック・サティの生誕150周年ということで、サティをテーマにアート、音楽、ダンスが融合した子どものためのワークショップを行いました。子どもたちが自ら感じ、楽しみ、やってみるという体験を促すため、サポートスタッフとして保育士や幼稚園教諭をめざす学生に声をかけました。また、事前に学生に対してワークショップ運営についての講義を行ったことで、芸術活動を通した地域交流の場ともなりました。

プレワークショップでは、小鹿紡さんのピアノの生演奏とダンサー・Cュタツヤさんの短い劇でエリック・サティを紹介。次に、美術家・石河美和子さんの指導でのアートワークを行い、サティになぞらえた「へんてこ」と「自由」をテーマに45分間でオリジナルの作品を仕上げました。翌日は、青木智哉さんがピアノ演奏を、中村明日香さんがダンスを担当しました。

メインワークショップは戸塚区民文化センター さくらプラザを会場に、未就学児と小学1～3年生の2部制にて開催。ステージ上をワークショップエリアとし、保護者はホールの客席からその様子を眺めるというかたちをとりました。サティをイメージした絵画を背景に、ピアノの生演奏やダンスを鑑賞しつつ、いつの間にか子どもたち自身もリズム遊びや、身体表現を楽しみ、最後にはチームでひとつの美術作品を完成させるという盛り沢山な2時間となりました。会場に入る時には緊張していた親子が、帰るときには笑顔でサティの音楽を口ずさむ様子が見られ、心に残るなにかを持ち帰ったのではないかという手応えを感じました。

このワークショップの最大のねらいは、子どもたちが創造する楽しさを体験し、自己表現方法のひとつとして芸術に親しむことです。さまざまなジャンルのアートが融合したワークショップに参加したことで、これから成長する過程で出会うであろうあらゆる形の芸術に対し、オープンに接してもらうきっかけになればなによりです。

タツヤ先生がサティに扮して
サティってどんな人？を楽しく説明
撮影者：平舘平

カラフルな風船でスープづくりに挑戦！
撮影者：平舘平

青木先生のピアノ演奏で
へんてこサティの音楽を聴きましょう♪
撮影者：平舘平

これからどんな王冠を
つくりましょうか♪
撮影者：平舘平

舞台アートは石河美和子先生がデザイン
中村明日香先生が踊ります
撮影者：平舘平

中区

カドベヤ・オープンDAY
―― つどおう・かたろう・つながろう

居場所
「カドベヤで過ごす火曜日」

連絡先
URL　http://www.kadobeya2010.net/
E-mail　chacky@keio.jp
TEL　045-566-1251

団体紹介
横浜市で働く人、住民、大学教員と関東圏のアーティストが協力して運営を行っています。参加者は寿地区を始め、居場所近隣に住む人・働く人、子どもたち、親御さんなど多彩です。背景は異なっても場に集うことで、新しい自分や他者を発見することを目指しています。

和の所作

会期：2016年7月1日（金）～2017年1月31日（火）
会場：カドベヤ
来場者数：306人

参加アーティスト：小川美紀雄、小川一（はじめ）、木檜朱実、黒沢美香、さそうすなお、シリュウ、花崎杜季女、花崎三千花、るみこ（千田るみ子）、吉福敦子

主催：居場所「カドベヤで過ごす火曜日」運営委員会
後援：慶應義塾大学教養研究センター
協力：コトラボ合同会社、認定NPO法人「さなぎ達」、一般社団法人「地唄舞普及協会」、黒沢美香＆ダンサーズ、The Dance Times

実施イベント

7月5日(火)	カドそうめんの日
7月12日(火)	手品まずはここから
7月19日(火)	ハッピーワークショップ　その1
7月26日(火)	ハッピーワークショップ　その2
8月2日(火)	カズさんとムーミンの対話会
8月9日(火)	積み木で遊ぼう
8月23日(火)	だべってダンス
8月30日(火)	地唄舞ではんなり、其の二
9月6日(火)	ほぐまり手あて塾
9月13日(火)	カズさんとムーミンの対話会
9月27日(火)	自分の声を見つける、朗読をきく その3
10月4日(火)	お座敷芸をつくる
10月11日(火)	秋のカド鍋
10月18日(火)	だべってダンス
10月25日(火)	ヘルシーでアクティブな生活を目指して！
11月1日(火)	ほぐまり手あて塾
11月8日(火)	からだを聴く
11月15日(火)	からだを使ったゲーム大会
11月22日(火)	みんなでふらふらフラダンス
11月29日(火)	自分の声を見つける、朗読をきく その4
12月6日(水)	心のやまいというものについて
12月13日(火)	手品、まずはここから
12月20日(火)	和を噛む
12月27日(火)	パーソナル・ライティング
1月3日(火)	書初め大会とカド鍋雑煮会
1月10日(火)	何もしないけど、何かするカドベヤ
1月17日(火)	コミュニティダンスの実践と背景
1月24日(火)	コミュニティダンスを継続する・作品化する
1月31日(火)	やさしい歌の夕べ

やさしい歌の夕べ

さまざまな体と心を持つ人が集う居場所でありたい

カドベヤは、毎週火曜日にオープンする地域の居場所です。17時半～19時は、足湯に浸かりながら話ができる「足湯カフェ」、19時～20時はワークショップで心と体をほぐす「ストレッチ」、そして20時～21時が、みんなで食卓を囲んでの「夕めし」の時間です。外部のアーティストだけでなく、参加者自身がワークショップの案内人をつとめるようになって3年目。近隣地域以外からの参加者や、定期的に参加してくれるアーティストも増え、集まる人の輪が広がりました。今年度は活動を総括する意味で、コミュニティにおけるアートの意義と可能性を探ること、そして成果発表のふたつを目標として事業を進めてきました。

まず「コミュニティを知る」という名のもとに、統合失調症当事者によるトークや、自己省察の手法のひとつであるパーソナル・ライティングの実践、コミュニティダンスについてのディスカッションを開催。参加者たちの背景を知る上でも貴重な体験となりました。成果発表に向けての活動は、中心人物であったアーティストを12月に病気で失ってしまったものの、来年度の開催に向けて話し合いを進めています。

今年度の大きなテーマのひとつに「居場所の継続」があります。運営代表者が長期的に横浜を離れることが決まっていたため、責任のありかを含め、どのような体制でオープンしていくのかが課題となりました。結果的に後援団体である慶應義塾大学の研究者、協力団体からのサポートを得ることでき、参加者自身が運営を行うことで「ゲストを受け入れる場所」から「自ら運営する場所」への転換がはかられた1年となりました。とはいえ、さまざまな体と心を持った人々が集まるこの場では、ただそこにいたいからそこにいるということも重要な「役割」です。この場所でやりたいことをまず発見すること。そのような「参加」の意義をあらためて考えさせられました。

からだを使ったワークショップ

コミュニティダンスについて知る

夕めしの宴

中区

映像グループ ローポジション 10周年記念・特集上映「ハマのドキュメンタリー映像作家たち」

映像グループ ローポジション

連絡先
URL https://www.lowposi.com/
TEL 045-228-7996
090-9828-1357
Facebook https://www.facebook.com/lowposi/

団体紹介
横浜を拠点として、ドキュメンタリー映画を中心に様々な映像製作を手がけています。低い目線で物事を見つめたいと、ローポジションと名づけました。NPO・市民活動・教育機関等から、人権・福祉・平和・環境など、社会性の高い映像制作を多く受託しています。

チラシ「ハマのドキュメンタリー映像作家たち」

会期：2016年7月16日(土)～7月22日(金)
会場：横浜シネマリン
来場者数：518人

参加アーティスト：飯田基晴、常田高志、土屋トカチ、土井敏郎

主催：映像グループ ローポジション
協力：横浜シネマリン、ヨコハマらいぶシネマ

実施イベント
7月16日(土)～7月22日(金)　特集上映「ハマのドキュメンタリー映像作家たち」

ドキュメンタリー映画を通じて「他者」と出会う一週間

2014年にリニューアルオープンした老舗映画館・横浜シネマリンを会場としたドキュメンタリー映画祭を開催しました。横浜の作家によるドキュメンタリー映画13本を、それぞれ「路上」や「働く」といった7つのテーマで新たに捉えなおし、上映後には監督によるトークショーを開催。さらに上映作品に関わる横浜市内のNPOやアーティストによる活動紹介の時間を設けることで、映画をきっかけに社会課題や地域課題にアプローチすることをねらいました。

来場者は目標であった500人を超え、特に「ヨコハマメリー」(監督・中村高寛)は補助席が必要になるほどの盛況ぶりでした。新宿の路上生活者を追った作品「あしがらさん」(監督・飯田基晴)など、なかなか劇場で見ることができないけれど普遍性のある作品を紹介できたことも大きな成果です。

アンケートでは「前から観たかった作品をこの機会に観ることができてよかった」「トークの話に感動した」「定期的にこういう企画を続けてほしい」といった声が寄せられ、今回の特集上映の意義を感じ取って頂けたことを実感できました。初めて横浜シネマリンに足を運んだという方も多く、横浜の劇場・映像文化を支える活動としても成果をあげられたことは、大きな喜びです。

また、ボランティアグループ・ヨコハマらいぶシネマの協力で音声ガイド付き上映を実施することができました。聴覚障害のある方からは「台本を提供してもらえたら、それを読みながら映画を鑑賞したい」と要望を頂いたため、それぞれの監督から台本を送ってもらい提供しました。車椅子の方がご来場になった際は、劇場スタッフや居合わせた方と共に車椅子を持ち上げて対応。限られた設備であっても、互いに知恵を絞り工夫することで、多くの人々に作品を届けることはできるのだと気付かされました。

今後は、劇場や作家、地域の方々と連携することで活動の拡充を図りたいと考えています。

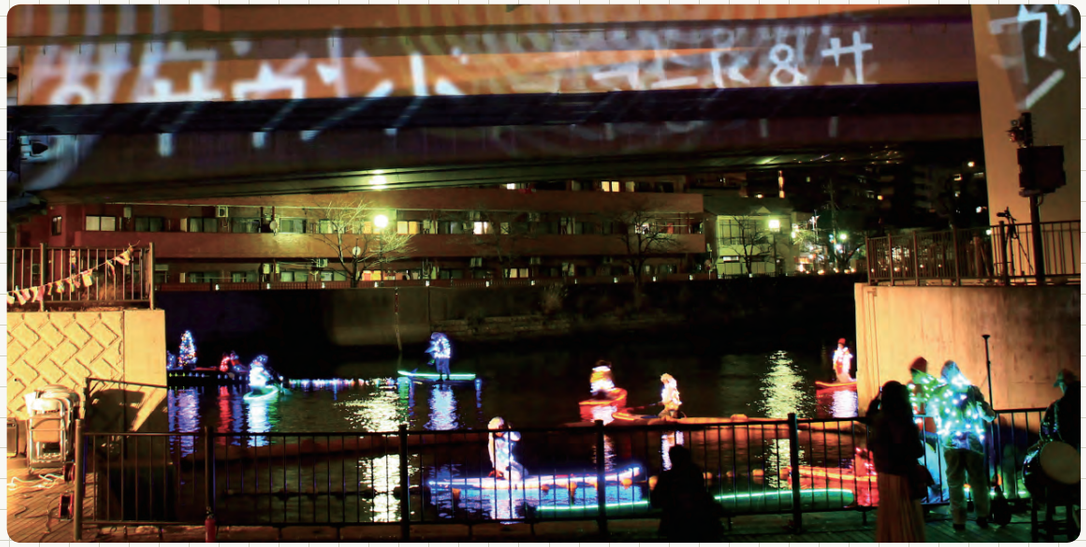
7月22日
シネマリン支配人・八幡温子さんと記念撮影

7月19日
常田高志、土屋トカチ、飯田基晴による舞台挨拶

7月20日
三浦淳子×土井敏邦トーク
進行役：土屋トカチ

南区

大岡川アートプロジェクト「光のぷろむなぁど2016」



水辺のパフォーマンス

会期：2016年12月10日(土)～12月11日(日)
会場：蒔田エコサロン、蒔田公園
来場者数：6,640人

参加アーティスト：ふじたおさむ、石渡文、竹本真紀、勝野真美、藤田勝美、今井尋也

主催：大岡川アートプロジェクト実行委員会
協賛：公益社団法人 神奈川県宅地建物取引業協会 横浜南支部、三徳エステート株式会社、鹿島建設株式会社横浜支社、株式会社平岡電気工事、蒔田連合子ども会、横浜建物管理協同組合、株式会社グローバル横浜警備保障、株式会社敷嶋あられ嵯峨乃家本店、NPO法人よこはま里山研究所～NORA(はまどま)、横浜建設一般労働組合南支部、旅館松島、横浜蒔田吉野連、花之木歯科クリニック、カラオケパブポテト、株式会社浅岡装飾、横浜市立蒔田小キッズクラブスタッフ一同、横浜市立日枝小キッズクラブスタッフ有志、ファミリーマート宿町店、神奈川電材株式会社、神奈川ドライビングスクール、株式会社横浜合板商会、とりぎゅたぶう、鮨わかし、有限会社ミナミファーマシー、ブラッセリーマルミット、まっちゃげ、夢庵横浜宮元町店、じんや、ルシェール、ムツミ硝子有限会社、ぱあら～泉、カッセルカフェ、アド・ワークス、有限会社かめや、TIES、サンクス横浜吉野町駅前店
協力：蒔田連合町内会、お三の宮地区連合町内会、吉野町町内会、太田地区町内連合会、蒔田公園愛護会、横浜こども専門学校、神奈川県立横浜清陵総合高等学校、横浜市立蒔田中学校、横浜市立共進中学校、横浜市立平楽中楽校、横浜市立日枝小学校・蒔田小学校・南太田小学校・大岡小学校放課後キッズクラブ、南太田小学校おやじの会、蒔田連合子ども会、日蓮宗 本正院、蒔田エコサロンの会、水辺荘、tvkコミュニケーションズ、首都高速道路株式会社、神奈川県横浜川崎治水事務所、横浜市環境創造局、横浜市南土木事務所、中村地区センター、横浜市吉野町市民プラザ、男女共同参画センター横浜南(フォーラム南太田)

実施イベント

6月12日(日)	光のぷろむなぁど2016 キックオフミーティング
10月15日(土)	光のぷろむなぁど2016 プレイベント
12月10日(土)～12月11日(日)	光のぷろむなぁど2016

大岡川アートプロジェクト実行委員会

連絡先
URL http://ohokagawaart.blog45.fc2.com/
E-mail ohokagawaart.koho@gmail.com
TEL 070-5557-9924
Facebook https://www.facebook.com/ohokagawaart/

団体紹介
吉野町市民プラザが2008年に立ち上げたアートプロジェクトのメンバー(町内会、近隣公共施設、マスコミなど)が中心となり、09年に実行委員会を設立。南区の蒔田、お三の宮地区などの住民と各種団体を巻き込みながら、住民のつながりを作っていきます。

手作りのイルミネーションが照らす地域を包むサウンド

大岡川アートプロジェクトでは、蒔田公園を中心に大岡川へとつづく手作りのイルミネーションイベントを開催しました。今回はテーマを「アート&サウンド」とし、「音」に注目した活動を行った1年でした。物理的な音だけでなく「静けさ」や「にぎわい」を含め、この地域だからこそ感じられる音を探りました。

プレイベントでは「第4回横浜運河パレード」とのコラボレーションが実現。蒔田公園内の親水広場でコンサートを行い、蒔田中学校吹奏楽部をはじめとしたさわやかな演奏で船を受け入れました。その他、おなじみの屋台「ホッと HOT カフェ」やワークショップなども展開しました。

12月のメインイベントは、コンサート出演団体も過去最多となり、テーマ通り「音」があふれる2日間となりました。コンサートステージの背景となる首都高速の橋脚は今年も華やかなライティングで彩られ、耳だけでなく、目でも音を楽しめる空間になりました。さらに、会場の中心に新たに設けた「キャンドルステージ」は、キャンドルの個数・スケールが過去最大規模となり、公園全体が暖かな光に包まれました。参加者からもキャンドルナイトとステージが同時に楽しめると好評でした。また、ペットボトルを利用し、アーティストと地域住民がともに作り上げた光のお城「クリスタル・キャッスル」はロマンチックな雰囲気で、訪れた人々の顔を明るく照らしました。今回はイベント開始時間を早めたことや公園全体を使用したことにより、人の流れや来場する時間帯が分散した印象があります。今後は、にぎわいを保つことを意識したいと考えています。

「光のぷろむなぁど」も今年度で9回を数えました。少しずつ規模が大きくなった分、管理の問題が浮上しています。参加者が平等に参加できるようなルール作りや、提出書類フォーマットの作成、出店者や出演者への説明会の充実などが今後の課題です。

クリスタル・キャッスル

アートタイム・シンフォニー

光の屋台_インフォメーション

中区

本牧アートプロジェクト 2016

ArtDisco「こどもディスコ Season 2」@HONMOKU-AREA-2/ホワイエ　撮影者：森日出夫

会期：2016年10月29日(土)～2017年1月21日(土)
会場：三渓園・旧燈明寺本堂前、大鳥中学校コミュニティハウス、本牧中学校コミュニティハウス、HONOMKU AREA-2、本牧エリア一帯
来場者数：1,471人

参加アーティスト：石神夏希、ペピン結構設計、テラミチ健一朗、鶴家一仁、高谷 楓、大間知賢哉、岩城かのこ、石津雄司、内木里美・HEAVEN HUG、坂田太郎、中野成樹

主催：NPO法人Offsite Dance Project、本牧アートプロジェクト実行委員会
共催：HOCS(本牧コミュニティ・ステーション)、三渓園
特別協賛：株式会社エスタディオホールディングス
協賛：大谷不動産、本牧 玉家、株式会社パインバレー、貝焼和光 横浜元町店、株式会社美濃屋あられ製造本舗、株式会社本牧葬儀社、Honmoku cake-ya yoko、kuusen、横浜ロイヤルホテル
助成：子どもゆめ基金
後援：横浜市文化観光局、横浜市立大鳥中学校コミュニティハウス、横浜市立本牧中学校コミュニティハウス
協力：はまっ子ふれあいスクール 間門小学校、鈴木屋酒店、メリ～ゴーランド研究所、本牧ハローカフェ、レストラン・喫茶 パーフェクト、カフェ・イスタンブールの猫、McCoy's Country Store、花見煎餅吾妻屋、本牧OZ、御影堂、岩波笑店、満寿屋、本牧山頂公園、花遊便・イオン本牧店、ハニーズポートカフェ、ふくろうカフェ福来楼本牧店 ほか

実施イベント

10月29日(土)	5th本牧かぼちゃまつり連動企画「メリーゴーランドがやってきた！」
10月29日(土)、10月30日(日)	本牧AIR｜鶴家一仁 ワークショップ
11月6日(日)、11月19日(土)、11月20日(日)、11月27日(日)、12月3日(土)、12月10日(土)	提携公演：ArtDisco「こどもディスコ Season 2」ワークショップ
11月19日(土)、11月26日(土)、12月3日(土)	演劇ワークショップ
12月17日(土)	提携企画：ArtDisco「こどもディスコ Season 2」
12月17日(土)、12月18日(日)	本牧AIR｜鶴家一仁 公開プログラム「グラインド⇒ブレンド」
12月18日(日)	トーク「暮らすこと、つくること―営みとアートの関係性」
2017年1月21日(土)、1月22日(日)	ペピン結構設計「ギブ・ミー・チョコレート！」
1月22日(日)	トーク「"秘密結社"で本牧のまちを編集する」

NPO法人 Offsite Dance Project

連絡先
URL　http://honmoku-art.jp/
E-mail　info@honmoku-art.jp
TEL　090-6346-5820
Facebook　https://www.facebook.com/Honmoku-Art-Project-1403029513267344/

団体紹介
2008年設立。横浜を拠点に国内外の非演劇空間でアクセスビリティの高い舞台芸術をプロデュース。身の回りの環境を作品に取り込むことで、ダンスそのものの領域や可能性を広げ、アーティストの想像力や観客の眼差しに新たな刺激となる体験をつくり出しています。

本牧で展開される住民参加型アートプロジェクト

4回目となる「本牧アートプロジェクト2016」では、初年度から連続参加の石神夏希をディレクターに迎え、より地域に密着したアートプロジェクトを目指しました。

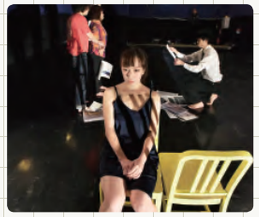
今年は2回目のスタートの年として、いくつかの変更を行いました。ひとつは、従来の短期集中型から、3ヶ月間まちなかで複数のプロジェクトが並走するプロジェクト形式に変えたこと。また、昨年立ち上がった住民ボランティア組織「本牧アンバサダー」を実行委員会に置き、地域協働を推進。この活動は多岐にわたり、各プログラムのリサーチや運営、コーディネート、活動を伝える情報紙「HONMOKU TIMES」の執筆や編集、配布など、20～50代の住民が自発的に参加し、事務局とともに重要な役割を担うこととなりました。

公募レジデンスプログラム「本牧AIR」ではダンサー・鶴家一仁が2ヶ月半、本牧の個人宅にホームステイし、リサーチを重ねて作品を創作。また、メインプログラムである「ギブ・ミー・チョコレート！」は石神率いるペピン結構設計の製作により上演しました。本牧の住民が店舗や自宅などの場所を提供するとともに、子どもから大人まで30人が出演。市内外から200人近くの参加者が来場し、大きな話題を呼びました。

お馴染みとなりつつある移動式メリーゴーランドは「本牧かぼちゃまつり」と連動して、三渓園にて展示。そのほかにも、子ども演劇ワークショップやトークプログラム、昨年の「本牧AIR」参加アーティスト・ないきさとみによる「こどもディスコ Season2」など地域に根ざしたプログラムで構成しました。

事業終了後には、町内連合会での活動とのリンクができないかという呼びかけがあり、住民参画の仕組みづくりという大きな課題にアプローチできたことは喜ばしい成果です。一方で、資金面での課題はいまだ残っています。人や場所、ネットワークなどの現物の支給があって成立している部分が多く、財政基盤を整備するためには新たな展開の必要を感じています。

ペピン結構設計
「ギブ・ミー・チョコレート！」
撮影者：菅原康太



鶴家一仁「グラインド⇒ブレンド」
@HONMOKU-AREA-2/シアター2
撮影者：森日出夫

メリーゴーランドがやってきた！
@三渓園/旧燈明寺本堂前
提供：三渓園

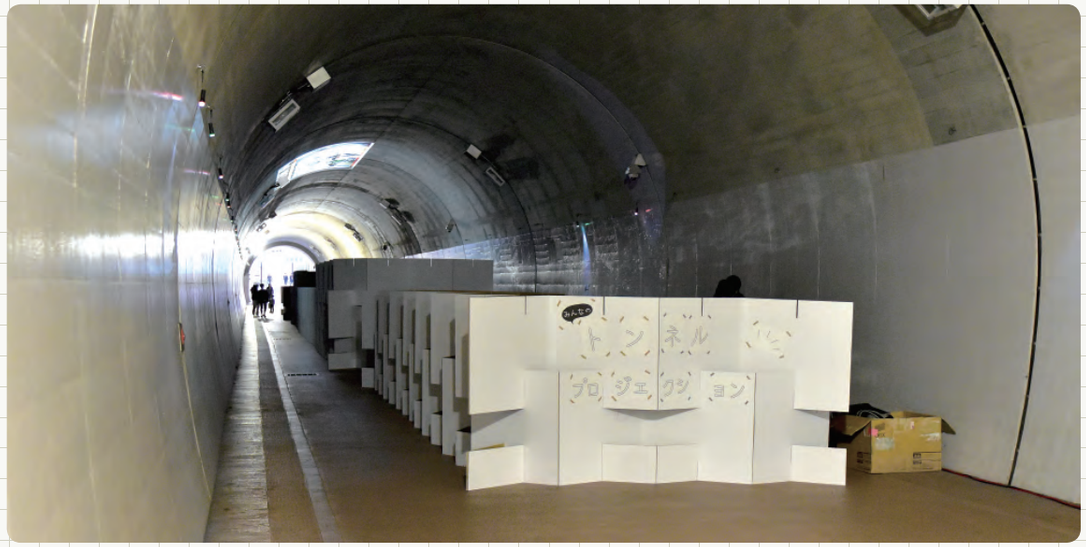
神奈川区

神奈川区魅力さかせ隊
みんなのトンネルプロジェクト

神奈川区
魅力さかせ隊

連絡先
E-mail　km.sakase@gmail.com
TEL　045-534-7587
Facebook　https://www.facebook.com/km.sakase/

団体紹介
反町エリアを中心に、建築・土木・環境など広い分野から集まった学生と社会人がまちづくり活動を行う団体。近年は反町の魅力を紹介する地域プレス「反町ジャム」の発刊や、廃線跡のトンネルを通って楽しむ場所に変える「トオリバイベント」を実施しました。



みんなのトンネルプロジェクション（段ボールパーテーション）

会期：2016年7月10日(日)～11月27日(日)
会場：高島山トンネル、反町駅前ふれあいサロン、青木たいようクラブ
来場者数：1,061人

参加アーティスト：濱田慎太、神奈川大学TEAM NPC

主催：神奈川区魅力さかせ隊
協賛：株式会社フォーシス
協力：濱田慎太建築設計事務所、神奈川大学TEAM NPC

実施イベント

7月10日(日)	トンネル内実験
7月17日(日)	トンネルであそぼう！
11月2日(水)	青木たいようクラブワークショップ
11月27日(日)	みんなのトンネルプロジェクション

トンネルにひろがる異空間がまちと人を繋ぐ

このプロジェクトは、東横フラワー緑道内にある高島山トンネルを、まちの文化を発信するシンボルとして住民が主体的に活用していくことを目指してスタートしました。具体的には、反町の風物詩となるイベントを企画するためのワークショップを開催し、リサーチと実験を通して、トンネルを生かしたイベントづくりのステップとしました。

地域の参加者を集めるのは難しく、まずは少人数のワークショップを行い、高島山トンネルの魅力を探りました。その結果、トンネルの「長さ」と「暗さ」という特色を生かしてトンネル内の壁に映像を投影し、プロジェクションマッピングの手法で、まちの文化発信を行うというコンセプトが決定しました。映像は、高島山トンネルが線路跡を生かした緑道であるということを踏まえ、子どもたちの描いた電車のイラストがトンネル内を走るイメージ。空間設計は地元の建築家とともに白い段ボール板を組み合わせたパーテーションを作成し、近隣の学童保育所で開催したワークショップで、自分たちが住むまちの絵を描き込んでもらいました。虹がいくつもかかり、カラフルな屋根の並ぶ夢あふれるまちの壁画が完成しました。

イベント当日はカフェブースや映像上映など、普段のトンネルとは違う異空間を演出し、およそ1,000人の地域住民を出迎えました。地域の店舗を取材した映像は、観た人から「このお店はどこにあるんですか？」と質問が上がり、ゆるやかながらも、まちと繋がることができたと感じました。近隣の方からも、次回はぜひ共催したいという声をいただきました。

継続にあたっての課題は、資金を集めていく仕組みづくりと、運営スタッフの拡充です。運営の中心が大学生であるため、学業との両立がネックになっています。さまざまな団体と協働することで、より安定した活動を目指したいと考えています。

トンネル内実験

みんなのトンネルプロジェクション（ビックプロジェクション）

青木たいようクラブワークショップ（トンネル内投影実験）

青木たいようクラブワークショップ（町の絵）

みんなのトンネルプロジェクション（映像体験）

金沢区

第18回金沢文庫芸術祭
「子供の未来は地球の未来」

みんな汗だくになって踊るサンセットパレード

会期：2016年9月18日(日)～11月15日(火)
会場：横浜市海の公園、アサバアートスクエア、カフェばおばぶ、
長濱ホール、その他金沢区近郊各所
来場者数：21,930人

参加アーティスト：ロコ・サトシ、はち、RISO、HALCONY、JOGI、村山二朗、アーリーダンス カプリオル

主催：金沢文庫芸術祭実行委員会
共催：横浜市地域文化サポート事業・ヨコハマアートサイト2016、横浜市緑の協会 海の公園
協賛：アサバアートスクエア、池川クリニック、居酒屋 楽、旨いもん酒房店 漫遊記、Hi!鍼灸整骨院、株式会社エッチアールディ、大成整形外科クリニック、介護福祉サービス 守の会、かごの屋 金沢文庫店、風美容院、カトリック金沢教会、神奈川トヨタ自動車株式会社 金沢店、一般社団法人 金沢区三師会、金沢白百合幼稚園、一般社団法人 金沢まごころの会、株式会社金沢臨海サービス、Café&Bar EN、カフェギャラリー＆窯 ばおばぶ、カラオケスナックトマト、かわせみの庄、金八家ラーメン、くま薬局、クラウンフーヅ株式会社、啓進塾 金沢文庫校、KRデンタルクリニック金沢文庫、桜井歯科医院、さわやかスナックとんぼ、司法書士 寺田慎太郎事務所、ジャパニーズダイニング NOBU、酒蔵.すなっく 縁、昭和精工株式会社、Zinギター工房、STUDIO JUST、スナック ぬくぬく、セブンイレブン 横浜寺前店、セレモホール金沢文庫、ダイニング 源、有限会社タッドライン、DAN DESIGN 有限会社、地球食堂 金沢文庫店、宗教法人 東光禅寺、日本料理 鮟鱇 称名寺店、ネッツトヨタ横浜株式会社 マイネッツ金沢、株式会社 ハウスレーベル、株式会社 はまかぜ新聞社、浜坂医院、ピーズ玉 船山政志、フジカラーパレットプラザ金沢文庫店、ふみくら茶屋、まいど金沢文庫店、マインマート釜利谷店、有限会社むとう教材店、医療法人社団 森クリニック、焼鳥 修、焼き鳥番長、山本助産院、吉田製麺店 金沢文庫、NPO法人 ルンビニー・わらべ園、株式会社ミックコーポレーション、京葉kids アカデミー

後援：横浜市金沢区役所、神奈川県教育委員会、横浜金沢観光協会、神奈川新聞社、FMヨコハマ、TVK
協力：愛と勇気とさんま実行委員会、チャイハネDEPO、KOBUSHI POWA、Microtacs、M&N、SLOWNIN、Taguchi craftec 、ブレインバスター太陽光音響、BE-IN、ABURABITO、I LOVE YOKOHAMA、横浜市立文庫小学校、横浜市立金沢小学校、西柴商店街、西柴町内会、谷津町内会、掛田商店、Taguchi craftec、Microtacs、M&N、SLOWNIN、ガーディアンエンジェルス

実施イベント

9月28日(水)	オープニングフェスティバル
9月18日(日)～11月15日(火)	一般イベント
10月8日(土)	実行委員が先生のナチュラルおやつ教室
11月5日(土)	子どもだけのワークショップ祭り
12月4日(日)～12月28日(水)	KAF写真展

金沢文庫芸術祭実行委員会

連絡先
URL　http://www.bunko-art.org/
E-mail　info@bunko-art.org
TEL　045-788-9119
Facebook　https://www.facebook.com/bunkoart?ref_type=bookmark

団体紹介
年齢、職業、地域問わず集まったイベントのプロではなく素人で構成されたボランティア市民活動団体。スタッフとわず、出展者、来場者、関係者みんなと一つになって新しい繋がりや広がりが生まれ関わる人全てが成長ができることを心がけて活動しています。特に子供や学生がどんどん活躍して様々な新しい体験ができる場にしていきたいと思います。

ボランティアに支えられ 18回目の芸術祭

「こどもの未来は地球の未来」をスローガンに続けてきた金沢文庫芸術祭も、今年度で18回目を迎えます。この芸術祭では、毎年1dayイベントとして海の公園でのアートフェスティバルと、まち全体を会場にワークショップや展示を開催する2ヶ月間の街角アートラリーを行ってきました。今年度は「1dayイベントから街角アートラリー終了までモチベーションを保ち続けることが難しい」という課題を解消するため、従来の街角アートラリーを一般イベント、海の公園でのイベントをオープニングフェスティバルへと名前を変えて実施しました。

オープニング当日は小雨が降る中のスタートでしたが、ふたつのステージとパレードの演奏が響き渡るうち、雲間から太陽が顔をのぞかせました。アーティストによる作品の展示販売やワークショップ、自然の豊かさと触れ合う「先住民族広場」、子どもたちが企画した「虹の翼隊のヒミツきち」やプレイパークゾーンなどバラエティ豊かなアートとの出会いが生まれました。まちなかでは、出展作家の自宅や、ギャラリー、教会、公共ホール、動物園といった区内各所を会場に25の企画を実施。陶芸体験やマンダラ塗り絵といった作品制作ワークショップ、篠笛や古楽器などの演奏、ライブペインティング、アイヌ文化体験、助産院での文化祭など、さまざまなジャンルの出展により、多くの参加者がまちとアートに親しむ2ヶ月間となりました。

運営面では、継続をテーマに大きな改革を行いました。まず、段取り・計画を見直し、効率的に動けるような新しいシステムを導入。さらに、ボランティアスタッフの募集・管理・コミュニケーションを行うチームを強化し、関係性を深めることで継続的な参加を促しました。今後もボランティアスタッフへの対処やシステムをさらに強化することで、苦労と充実をみんなでバランスよく味わえる環境を作りたいと思います。

日頃の成果を発表する
ワールドステージ

プレイパーク竹のジャングルジムでは
子どもがおおはしゃぎ

71展のアートブースが立ち並び様々な
ハンドメイドに出会いました

西区

第17回
手づくり紙芝居コンクール

紙芝居文化推進協議会

連絡先
URL　https://kamibunkyo.jimdo.com/
TEL　080-5504-6168

団体紹介
神奈川県立図書館が20年間実施してきたコンクールが諸事情で休止することになったのを惜しみ、存続を願う市民、企業が協力して設立。会員は全国におり、コンクールの他、公演・講座の企画運営や広報誌の発行などにより、紙芝居を普及する活動をしています。

一作ずつ手に取ってコメント書き

会期：2016年7月14日(木)～11月27日(日)
会場：横浜市市民活動支援センター・ワークショップ広場、横浜市南図書館、神奈川県立青少年センター・多目的プラザ、神奈川県立図書館・本館1階会議室
来場者数：882人

参加アーティスト：長野ヒデ子、やべみつのり、ときわひろみ、宮崎二美枝

主催：紙芝居文化推進協議会
共催：神奈川県立青少年センター、神奈川県立図書館
協賛：京浜急行株式会社、ぺんてる株式会社
後援：神奈川県図書館協会、神奈川新聞社、子どもの文化研究所、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、横浜市文化観光局

実施イベント

7月14日(木)	手づくり紙芝居指導者 研修＆交流会
11月5日(土)	手作り紙芝居ライブ①
11月19日(土)	手作り紙芝居ライブ②
11月26日(土)	あなたが主役の実演会
11月26日(土)	紙芝居クリニック
11月27日(日)	手づくり紙芝居コンクール本審査会
11月26日(土)～11月27日(日)	全応募作品の展示会
11月27日(日)	過去の入賞作品展示会

手づくり紙芝居を通して まちの魅力を見つけるコンクール

今年度は、手づくり紙芝居のコンクールとともに、普及活動として創作講座の充実をはかりました。「手づくり紙芝居指導者研修＆交流会」は定員を超える応募があり、指導者としての経験は浅いけれど、これからチャレンジしてみたいと考えている参加者が多く集まりました。今後は指導者同士の横のつながりを生み、ノウハウをシェアするような機会へとつながっていくことを期待しています。また、コンクールにおいてジュニアの部における横浜市内からの応募数が、昨年と比べて約1.7倍と格段に増加したことは、指導者研修を行ったことによる確かな成果だと感じています。

コンクールでは全国・海外から多数の力作が寄せられ、作品に添付されている作者のメッセージからも、このコンクールが全国の紙芝居創作者の目標となっていることを実感しました。応募者は3歳から80歳代までと幅広く、それぞれの作者にとって、紙芝居が自己表現の大切な手段となっていることが感じられます。一般の部では、地域に根ざした作品の中に優れたものが増えてきたという印象がありました。昔話に限らず、作者自身が関心を持って取材した近現代の事象やテーマの作品など多岐にわたり、横浜らしい優れた紙芝居を発信する場へと育ちつつあります。

手づくり紙芝居を身近に感じてもらうためのプレイベントにも力を入れました。特に、応募者による「手作り紙芝居ライブ」は、発表の場を得た作り手が倍増しただけでなく、地域で手作り紙芝居の魅力を伝える機会としても好評でした。

「手づくり紙芝居」という文化を広めていくためには、指導者や講座を実施してくれる施設の開拓が課題となっています。さらに、優れた応募作品は眠らせておくのではなく地域で有効に活用するなど、コンクールの成果を還元できる仕組みづくりが重要だと考えています。文化を根付かせるというのは根気のいることですが、今後も継続的に普及に努めていきます。

紙芝居が生きがいの80代―クリニックで

観客をくぎづけに、初の横浜市長賞

手作り講座の指導者が研修・交流

ジュニアの部実演を終えて

最年少でグランプリ受賞

緑区

森ラボ2016
『横浜の森美術展9』

GROUP創造と森の声

連絡先
URL　http://adventureyokohamacitizenforest.blogspot.jp/
E-mail　morinokoe2@yahoo.co.jp
TEL　045-933-1460
Facebook　www.facebook.com/SouzoutoMorinokoe1997

団体紹介

年齢職種も様々、森の自然が好きな地域住民と美術家の集まり。まず森の自然を「知る」ために他の自然系活動団体とも交流し、様々な実験的企画を施行しています。自然との付合い方とそれをどの様に私達の生活と結びつけるのか、その可能性を見出し提示してゆきたいと考えています。

近田明奈 作品「だん だん だん」

会期：2016年9月19日(月)～10月23日(日)
会場：横浜動物の森公園予定地の一部
来場者数：1,250人

参加アーティスト：リ・ウンウー Ri,EungWoo、カン・ヒージュン Kang,HeeJoon、トマス・マイ Thomas May、ASADA、石黒和夫、岡典明、木賀陽子、近田明奈、堀江和真、吉川陽一郎

主催：GROUP創造と森の声
後援：横浜市環境創造局
協力：にいはる美術、ひのでや酒店

実施イベント

9月10日(土)～9月23日(金)	まち展示
8月14日(日)～9月18日(日)	森の作品制作の公開
9月19日(月)	「横浜の森美術展9」オープニングイベント
9月25日(日)	アートツアー(会期中の日曜日開催)
10月23日(日)	「横浜の森美術展9」クロージングイベント

森の中の野外美術展
森との対話で変化する作品

横浜動物の森公園予定地である森を会場としたアート企画も、今回で20回目となります。森の中を歩きながら作品を鑑賞する美術展ですので、やはり会場整備が課題です。昨年に会場を移動したこともあり、今年は順路の整備に時間を要しました。勾配のきつい道には階段、大きな溝部分には橋を設置しました。材料は前回展にて参加作家の使ったシラカシの丸太です。整備を行ったことで、それまでうっそうとしていた場所に光が射し、森の様子が見渡せるようになったことは、参加作家にとって作品の構想を膨らませる手助けともなったようです。

今年の展覧会では7人の国内作家に加え、韓国から2人、ドイツから1人の作家を招きました。当日は、自然の素材を使用して制作された11のインスタレーション作品が森のあちこちに並びました。植物を種類ごとに植え替え新たな風景を生み出す作品や、さまざまな大きさの葉を洗濯物に見立てた作品などが森に設置されました。枝を組み合わせた塔を背負った恐竜の像には、鑑賞している子どもたちも興奮した様子でした。

展覧会企画当初からの大きなテーマは「森の自然との対話」。作家が実際に森に通ううちに、作品のプランが変わっていくのを見ると、作家おのおのが森と対話し、自然を満喫している証拠だと感じます。

もちろん自然と共につくりあげる苦労もあります。今年はこれまで以上に台風の影響を受け、雨の中での制作となることもありました。荒天開催となったオープニングパーティーでは、雨よけのタープシートを木々の間に張り、来場者は雨音を聞きながらワークショップやバリダンスを楽しみました。

今後の課題は、森や作品を「見る」だけではない、アーティストの手法によって森を「体験」できる企画の充実です。自然と触れあい、受け入れあいながら生きる環境を次世代へ伝えていくため、来場者が「観客」から「参加者」へと転換できる仕組みを考えています。

オープニング バリダンス

アートツアー作品 石黒和夫

カン・ヒージュン(韓国)
作品「やさしい空間」

木賀陽子制作中

リ・ウンウー(韓国)制作中

神奈川区
港北区

ぐるぐるはためきアート展
白楽・妙蓮寺編

ぐるぐるはためきアート展
実行委員会

連絡先
URL　http://guruguru-art.jimdo.com/
E-mail　guruguru@mind-works.jp
TEL　045-481-1607

団体紹介
「芸術を美術館の外へ」を実践するアート集団CampArtの活動を母体に、アートフラッグを活用した「ぐるぐる白楽はためきアート展」を実施した実行委員会が、さらに小学校、町内会と連携し、より地域住民同士が混じり合うアート展を展開します。

横浜市立白幡小学校3年生作画ワークショップ作品

会期：2016年8月6日(土)～11月16日(水)
会場：パークホームズ横濱妙蓮寺ヒルトップマンションギャラリー、横浜市立白幡小学校、白楽商店会、白幡商興会、白幡向町商愛会、仲手原商興会
来場者数：18,750人

参加アーティスト：宮川真治、宮川ゆうこ、成田千穂、内村友宏、稲見明子、白幡小学校三年生四年生

主催：ぐるぐるはためきアート展実行委員会
協賛：三井不動産レジデンシャル「パークホームズ横濱妙蓮寺ヒルトップ」
協力：横浜市立白幡小学校創立80周年実行委員会、横浜市立白幡小学校、白楽商店会、白幡商興会、白幡向町商愛会、仲手原商興会、横浜市立白幡小学校いちょうの会、横浜市神奈川区役所、神奈川市民活動支援センター、東急電鉄白楽駅妙蓮寺駅菊名駅

実施イベント

8月6日(土)～11月16日(水)	はためきアート展作品展
8月6日(土)～8月7日(日)	はためきアート展トークイベント
8月20日(土)	アートフラッグ　マーク印刷作業
8月27日(土)	アートフラッグ作画　ワークショップ一般参加
9月23日(金)	アートフラッグ作画授業
9月30日(金)	アートフラッグ作画ワークショップ
10月16日(日)～11月16日(水)	アートフラッグ作品　商店街掲揚展示

小学校から商店街へ
地域をつなぐアートフラッグ

3年目となる今年は、近隣にある白幡小学校の創立80周年ということもあり、これまで以上に学校や地域と連携してプログラムを進めていきました。「私の夢・宝物」というテーマで手描きアートフラッグを作成し、白幡小学校を中心とした四つの商店街に掲揚。小学校児童を中心とした参加者が作成した約300点のアートフラッグには、お気に入りのゲーム機、ペット、スポーツ選手になっている自分の姿など、個性豊かなイメージが描かれ、児童は自分の描いたアートフラッグを探しながら、家族と一緒にまち中を「ぐるぐる」して楽しみました。

アートフラッグは、白幡小学校の近隣住民や保護者を対象にしたワークショップと、3～4年生の授業にて作成しました。このプロジェクトが授業の中に組み込まれ、地域のアーティストが学校に出向くことができたのは、これまでの活動を経て学校側との信頼関係が育ったからこそだと感じています。また、地域の大人からの注目度も高く、ワークショップでは50人以上の参加者が集まりました。中には親子二世代、または三世代での参加もあり、世代間交流の促進にもつながりました。また、ワークショップの参加だけでなく、フラッグにイベントマークを印刷するという、これまで実行委員会だけで行っていた作業も、近隣の方々と共に行うことができました。回を重ねたことで少しずつ地域ぐるみのイベントとして認識されてきたのだと感じています。

今年度の大きなトピックとしては、企業協賛の実現があります。企業とパートナーシップを組んだことは、資金面でのサポートだけでなく、プロジェクトの新たな価値の発見にもつながりました。それは、地域有志が学校や商店街と共に参加型アート活動を行えるコミュニティはその地域の不動産価値と成り得るということです。今後も、このプロジェクトをきっかけに、地域により豊かな交流が生まれることを願っています。

作画授業風景

一般参加作画ワークショップ

白幡小学校三、四年生
作画ワークショップ

栄区

さかえegao フェスティバル

YOKOHAMA ART SITE アートフェスティバル 2016 Report

さかえegaoプロジェクト

連絡先
URL　http://ega-oproject.com
E-mail　egao@smile.odn.ne.jp
TEL　045-392-7601(地域活動支援センターegao内)
Facebook　https://www.facebook.com/sakaeegaoproject

団体紹介
栄区内のモノ作りをしている9つの福祉事業所と栄区にゆかりのあるアーティスト9人がコラボでモノ作り販売を行うプロジェクト。障がいを持つ者も持たない者も大人も子供も気軽にアートを楽しむ事、沢山の製品を販売し工賃を生み出す事などを目的としています。

大人も子供も関係なく、いちょうドームを楽しんでいただきました

会期：2016年11月1日(火)～11月26日(土)
会場：地域活動支援センターegao、本郷中学 格技場、栄公会堂エントランス、栄公会堂全館
来場者数：570人

参加アーティスト：北川純、佐々木貴行with komorebi、さわたりちひろ、松本光世、ASADA、高橋寛行、カイフチエリ、石黒陽子、栗原俊子、佐野由美子

主催：さかえegaoプロジェクト
共催：横浜市栄区役所
協賛：神奈川日本建工、社会福祉法人訪問の家、NPO法人コンチェルト、ARIGATO GIVING 大船観音寺、のあインターナショナルスクール、轟音楽団、フジマニ、本郷台キリスト教会、長慶寺、社会福祉法人杜の会、ジェイエステート、社会福祉法人恵友会生活支援センター、神奈川中央ヤクルト販売株式会社、MOKU cafe
後援：地域通貨イタッチ
協力：さかえショップ＆アート

実施イベント
11月1日(火)～11月2日(水)　北川純といちょうドームを作ろう！ワークショップ
11月25日(金)　いちょうドームの展示宣伝
11月26日(土)　さかえegaoフェスティバル

笑顔あふれる バリアフリーな美術展

「栄公会堂を一日美術館に！」がテーマのフェスティバルです。障害がある人もない人もアートを身近に感じ、楽しんでもらいたいという思いで開催を続け、今回で4回目を迎えます。今年度は、同地域で活動する地域団体「さかえ・ショップ＆アート」や、趣旨に賛同する関係機関、個人アーティストらとともに事業を進めることで、地域との結びつきを深め、活動の拡充を図りました。

「見るアート」から「参加し、楽しむアート」に重点を置き、公会堂のエントランスには、体験できるアート作品「いちょうドーム」を設置。これは、現代美術家の北川純さんと、地域活動支援センターegaoと本郷中学校美術部によるコラボレーションで作成したもので、まるで巨大なスノードームのように、イチョウの葉が舞う大きなドームの中に入って遊べるというものです。当日は150人以上の人がドームの中で秋を楽しみました。アーティストによるワークショップブースも、作品制作のみではなく、作ったもので遊んだり探検したりと趣向をこらした内容が好評でした。

「えがお」をテーマにした作品を公募するコンテストでは、絵画に加え立体部門、パフォーマンス部門を設置したことで、これまで以上にバラエティ豊かな作品が集まり、見ている人々に笑顔を届けました。ステージではプロのアーティストによる演劇や紙芝居も上演。客席が引き込まれていく様子がわかりました。

フードコートや福祉事業所製品の販売ブースでは全出店団体の看板を和紙による草木染で作成したことで、いちょうドームと一体感が生まれ、店も作品のひとつとなることができました。近隣の小学生を中心とした来場者が買い物を通して各事業所と親しむことで、地域の結びつきが強まるいい機会ともなりました。

事業継続にあたっての一番の課題は資金の調達です。レベルの高いアート作品を鑑賞し、アートを楽しむ場を継続するためにも、より地域を巻き込み、「あのイベントなら応援したい！」と思えるようなイベントに育てていきたいと思います。

本郷中学校美術部と共にドームの準備

会場の各所で行われたワークショップを楽しむ子供達

いちょうドームの行列に並ぶ子供達

栄区

さかえdeつながるアート 2016

YOKOHAMA ART SITE コミュニティアート 2016 Report

さかえdeつながるアート

連絡先
URL　http://www.sakae-art.jp
E-mail　info@sakae-art.jp
TEL　080-4150-2700
Facebook　https://www.facebook.com/sakaedetsnagaruart

団体紹介
横浜市栄区で、地域とアートをつなげる活動をしている市民グループです。コミュニティアートのチカラを活かした取組を続ける中で、施設や学校からアートイベントの企画協力、アーティストやクリエイターのコーディネートなどの依頼も多くなり、「つながる」をキーワードに幅広い活動を展開中。

「つながる絵〜もうひとつのバリアフリー絵本」原画展

会期：2016年7月10日(日)〜2017年1月24日(火)
会場：小菅ヶ谷地域ケアプラザ、小山台小学校放課後キッズクラブ、栄区民文化センター　リリス　ギャラリー、小山台小学校図書室
来場者数：459人

参加アーティスト：工房・野楽ネットワーク、ASADA、伊藤文人、カイフチエリ、北川純、栗林孝之、佐々木貴行、佐藤良仁、高橋寛行、藤元秀征、Mazken（松本賢）、満島弘、本郷台小学校はまっ子ふれあいスクールの子どもたち、小山台小学校放課後キッズクラブの子どもたち、上平崇仁

主催：さかえdeつながるアート
共催：栄区民文化センター リリス、ティーンズクリエイション組織委員会、小山台小学校放課後キッズクラブ、小山台小学校PTA
協力：JAGDA神奈川、かながわデザイン機構、日本広告制作協会・教育支援部会、小菅ヶ谷地域ケアプラザ、神奈川県立地球市民かながわプラザ「あーすぷらざ」、桂台中学校、小山台小学校、さかえワークショップ研究室、さかえegaoプロジェクト、さかえ地域通貨プロジェクト・イタッチ、株式会社タウンニュース社、J:COM南横浜、ほか

実施イベント

7月10日(日)、9月25日(日)、10月23日(日)、11月27日(日)	「自然のめぐみをいかして草木染をしてみませんか」
8月20日(土)	「つながる絵〜もうひとつのバリアフリー絵本」原画展連携プログラム　ワークショップ「つながるBIG絵本をつくろう！」
9月13日(火)〜9月19日(月)	「つながる絵〜もうひとつのバリアフリー絵本」原画展+ワークショップ
2017年1月24日(火)	ティーンズクリエイション「おとなのキャリア教育講座〜不確実な未来において、こどもたちが自分自身の生き方をつくっていくために」

アートを通じて多世代が交流する

今年度は様々な世代とアートのつながりで生まれるコミュニティの可能性を広げることを目的に、地域のアーティストや施設と連携し、3つの事業を行いました。

「草木染実験室」では、多彩な染料を用いて、ストールやエコバッグ、Tシャツなどを染めるワークショップを実施。親子での参加もあり、若い世代へ草木染を伝える機会となりました。また、木綿への生藍染の試作や、柿渋染にもチャレンジ。地域での評判も高く、対象活動以外でもイベント依頼を受けるなど、活動は広がりを見せています。

昨年度からの継続企画「つながる絵〜もうひとつのバリアフリー絵本」では、今までにつながりのできたアーティストたちによる原画展を開催しました。この絵本に収録されている絵は、どれも画面の同じ高さに、水平な一本のラインが描かれています。原画を横に並べたことで、そのラインが強調され、目に見えないバリアを越えてつなぐ／つながるというテーマが明確になりました。放課後キッズクラブで行ったワークショップでも、同じテーマで作品を作成。プロの作品と子どもたちの作品が一本のラインでつながりました。また、原画展の会場で開催した「つながる絵ワークショップ」には、会場の作品に触発された来場者が多数参加。100人以上の老若男女によるカード作品が生まれました。

青少年とプロのアーティスト・デザイナー・クリエイターが出会うことで未来を考える「ティーンズクリエイション」では、小中学校の理解と協力とPTAの共催を得て、保護者に働きかける企画を実施。「『北欧社会』と『デザイン』の視点から、日本の教育の可能性を考える」ことをテーマに、子どもたちのクリエイティビティを損なわない姿勢を学びました。その他にも中学校のキャリア教育授業のサポートなど、デザイナー団体と連携しながらさまざまな活動を展開しています。

今後も、アートを通じて多世代が交流する環境づくりのため、地域に根付いた活動を継続していきます。

ワークショップ「つながるBIG絵本をつくろう！」即興のお話タイム

「草木染実験室」藍染

おとなのキャリア教育講座

市内全域

こども
京劇プロジェクト

新潮劇院／
一般財団法人 日本京劇振興協会

連絡先
URL　http://www.shincyo.com/
E-mail　ume@shincyo.com
TEL　03-6411-4168
Facebook　https://www.facebook.com/nihonkyogeki/

団体紹介
祖父の代より三代京劇一家の張春祥が日本での京劇普及を目的に1996年に設立した在日京劇団。在日京劇俳優と日本人俳優とで構成され、伝統京劇上演・ワークショップと平行し、他ジャンルとのコラボレーションや新演出京劇など先駆的な試みも行っています。

中華学校の児童が共演「天兵役」

会期：2017年1月18日(水)～1月27日(金)
会場：森村学園幼稚園、横浜山手中華学校
来場者数：1,446人

参加アーティスト：張春祥、以下京劇俳優：石山雄太、張桂琴、侯偉、張鳥梅、衛藤俊和、張小山、大島陸、張飛鳳、竹口美鈴、樋口理世、チャンチンホイ

主催：新潮劇院／一般財団法人 日本京劇振興協会
協力：学校法人森村学園、学校法人横浜山手中華学園

実施イベント

1月12日(木)	出演者への演技指導　一回目
1月18日(水)	こども京劇プロジェクト第一回公演、第二回
1月19日(木)	出演者への演技指導二回目
1月27日(金)	こども京劇プロジェクト　第三回公演

幼稚園や学校で
はじめての京劇との出会い

「こども京劇プロジェクト」では、横浜の子どもたちとその保護者が気軽に海外の芸術文化に触れられる機会を生み出すため、市内の幼稚園や学校を訪問し、中国の伝統芸能である京劇の上演とワークショップを行いました。演目は「天女散花」「孫悟空、天界で大暴れ」。当日の鑑賞だけではなく、事前に京劇を知る映像資料にて歴史に親しみ、上演後には登場人物である孫悟空の動きをみんなでやってみるという時間を設けました。また、京劇には歌舞伎の「大向こう」のように観客が拍手をし、呼びかけを行う場面があります。こちらも上演前に簡単なレクチャーを行ったことで、声を体と使って中国文化を体験する時間を生み出しました。

多くの子どもたちにとって初めて京劇と触れる機会になるということで、気軽に楽しむことができるよう日本語を織り交ぜた演出や、日本語字幕を設置。また劇の途中でサプライズゲストとして学校の先生が出演するなど、楽しい雰囲気の作品として印象付けるための工夫を行いました。

横浜山手中華学校では小学1年生から中学3年生までを対象とした学校の春節イベントの一環として開催。ここでは、事前指導を受けた10人の児童生徒が出演。クラスメイトがプロの俳優と共演している姿は、憧れと興奮をもたらし、京劇への興味関心へとつながりました。また、後日行ったアンケートでは、観客側の生徒にも「合唱コンクールのピアノ伴奏に立候補する」といったような成長が見られたという声が寄せられました。さらに、今回の公演をきっかけに部活動を発足し、生徒たちが主体となって京劇の上演を目指すことが検討されています。

今後は、より多くの市民に体験してもらうことを目指し、オープンな公演形態を模索する必要があると考えます。保護者を始めとした地域住民が気軽に訪れることのできる環境をつくることで、活動を通して学校と地域の結びつきが強まる機会となることを願っています。

公演後には記念撮影！学校の先生も出演しました

公演の後には児童と触れあい、
京劇の動作を教えるワークショップ

中華学校の児童が共演「小猿役」

中華学校の児童が共演「仙童役」

孫悟空、モモを盗み食い

中区

SLOW ACADEMY
実践シリーズ & ヨコハマ・パラトリエンナーレ準備連続講座

特定非営利活動法人
スローレーベル

連絡先
URL　http://www.slowlabel.info/
E-mail　mail@slowlabel.info
TEL　070-5453-7154
Facebook　https://www.facebook.com/SLOWLABEL.info/

団体紹介
スローレーベルは、国内外で活躍するアーティストやデザイナーと企業や福祉施設などを繋げ、特色を活かした新しいモノづくりとコトづくりに取り組んでいます。誰もが生産活動に楽しく参加でき、その手から生まれる個性や表情が味となる「マスクラフト」を得意としています。

実践シリーズvol.2 現代アート・複合　楽器やマントを作ってパレード

会期：2016年8月9日(火)～2017年1月21日(土)
会場：象の鼻テラス、シーダひのき工房、横浜ラポール
来場者数：203人

参加アーティスト：バルバラ・キャデ、井上信太、西森英行、信耕ミミ、坂東美佳、大歳芽里

主催：特定非営利活動法人スローレーベル
協力：象の鼻テラス、障害者スポーツ文化センター横浜ラポール

実施イベント

8月9日(火)	ヨコハマ・パラトリエンナーレ準備連続講座《前期》「インクルシブな芸術祭を考える」
8月20日(土)	実践シリーズvol.1 現代アート・デザイン
9月11日(日)	実践シリーズvol.2 現代アート・複合
10月15日(土)	ヨコハマ・パラトリエンナーレ準備連続講座《後期》「海外における障害とアートの今を学ぶ」
11月6日(日)	実践シリーズvol.3 演劇
12月17日(土)	実践シリーズvol.4 アニメーション
2017年1月21日(土)	実践シリーズvol.5 音楽(うた)
2017年1月19日(木)	実践シリーズvol.6 身体表現

障害のある人々とともに垣根のないワークショップを

「地域に暮らす多様な人の出会いと協働の機会を創ること」を目指す学びのプログラムとして、ワークショップを通じて学ぶ「実践シリーズ」、実践者から知見を得る「ヨコハマ・パラトリエンナーレ準備連続講座」を開催しました。

実践シリーズでは毎回取り組むアートのジャンルを変えてワークショップを行ったことで、それぞれのジャンルに興味がある多様な参加者が集まり、刺激的な創作の場となりました。プログラムは協働をテーマに、アーティストとともに考案しました。演劇の回では、知的障害のある参加者と「真夏の夜の夢」を制作、音楽の回では、聴覚障害のある参加者と即興で歌を作るなど、アーティスト含め、私たちにとっても新たな試みとなりました。

また、サポートスタッフとして市民インターンを公募。障害のある参加者をサポートしてもらう機会を通じて、市民がアクセシビリティを担うきっかけをつくることができました。

「ヨコハマ・パラトリエンナーレ準備連続講座」では、「障害とアート」の分野においてもまだあまり取り扱われていない「フェスティバル」や、アジアの事例など先鋭的なテーマを掲げ、それぞれ専門家を迎えて議論を深めることができました。また、インクルシブな社会づくりに関心のある市民が参加し、議論を共有することができたことも大きな成果です。運営面でも、あらゆる障害のある方を受け入れるための体制づくり(車椅子席の設置・手話通訳・UDトークを用いた文字による情報保障など)を行ったことで、団体内の経験の蓄積につながっただけでなく、参加者にもアクセシビリティの取組を身近に見てもらうことができました。

多様な参加者が集まる場を生み出すためには、「子ども向け」「障害者向け」などと対象を絞るのではなく、個別に丁寧に情報を届けていくことが重要です。そのためにも、今後は市内の団体や施設等と、より連携を深めていく必要を感じています。

実践シリーズvol.1
現代アート・デザイン

実践シリーズvol.2
現代アート・複合　パレードに使う
象のシンボルをみんなで作る

実践シリーズvol.3
演劇「真夏の夜の夢」の
シーンを演じる

実践シリーズvol.4
アニメーション　身近なものを使って
コマドリアニメーションを作る

実践シリーズvol.5
うた　即興で合唱曲をつくった

中　区
金沢区
南　区
保土ケ谷区

こころに響く打楽器 つくっちゃお♪

YOKOHAMA ARTSITE コミュニティアート 2016 Report

NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと

連絡先
URL　http://ashiato-dagakki.jp/
E-mail　info@ashiato-dagakki.jp
TEL　03-3762-6335
Facebook　https://www.facebook.com/NPO法人-打楽器コンサートグループあしあと-1534466333433240/

団体紹介
「子供たちに生の音楽を」をモットーに東京芸術大学卒の池野ひとみを中心に2001年結成。のべ400カ所、4万人の子供たちに打楽器の参加型のコンサートを行っています。東京近郊のみならず、被災者支援演奏など全国巡回中。2013年NPO法人化。

オリジナル打楽器製作風景、楽器体験

会期：2016年8月19日(金)～2017年1月31日(火)
会場：聖母愛児園、神奈川県立こども医療センター、下倉田地域ケアプラザ、新山下二丁目保育所、横浜市中区地域子育て支援拠点「のんびりんこ」、神奈川県ライトセンター、南幸自治会館、母子生活支援施設くらき、生麦地域ケアプラザ、ほとがや市民活動センター、新山下地域ケアプラザ
来場者数：650人

実施イベント
8月19日(金)、8月30日(火)、10月12日(水)、10月18日(火)、10月29日(土)、11月20日(日)、2017年1月15日(日)、1月21日(土)、1月25日(水)、1月29日(日)、1月31日(火)　こころに響く打楽器作っちゃおう

参加アーティスト：池野ひとみ、半谷麻意子、神本愛子

主催：NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと、中区子育て支援拠点「のんびりんこ」、生麦地域ケアプラザ、新山下地域ケアプラザ、一般社団法人倫理研究所家庭倫理の会横浜市　子供倫理塾
共催：下倉田地区社会福祉協議会、下倉田地域ケアプラザ
協力：マザーズハローワーク横浜、ひよこの会、神奈川ライトセンター、新山下二丁目保育所、子供医療センター、聖母愛児園、横浜里親の会

打楽器のリズムで 子育ての現場に特別な一日を

未来を担う子ども達の一番近くに居る母親、保護者や保育者にスポットを当てて、地域子育て支援拠点や病院、児童養育施設など計11箇所でワークショップつき本格打楽器コンサートを実施しました。ワークショップでは、プラスチックのカプセルを使ったオリジナルマラカスを作成。基本の形を作った後は、カラフルなモールやビーズなど、たくさんのパーツで自由に楽器をデコレーションします。子どもだけでなく大人も熱中し、それぞれのこだわりを重ね合う時間は、濃密なコミュニケーションの場となりました。ワークショップの次は打楽器コンサートと打楽器体験です。初めて生で大型打楽器の音を聞くという子どもも多く、初めはその音の大きさに驚いた様子を見せることも少なくありませんが、会場が一体となっての合奏タイムでは、自分でつくったマラカスを振り、子どもたちは小さな体いっぱいで音楽を楽しんでいました。

今年度は子育て環境の改善を大きなテーマとして掲げ、孤立しがちな母親や保護者へ会いに行くという意識で会場選びや、ネットワークの構築を行いました。今年度もマザーズハローワークの協力を得て、会場に相談ブースを設置。コンサートを楽しみがてら、気軽に相談ができると好評でした。また、視覚障害児・待機児童をもつ母親同士や、里親の会など立場が同じ母親・保育者同士がアートを通して自然に交流できる機会ともなりました。

母親や保護者にスポットを当てて市内を回ることで、それぞれの抱える問題が少しずつ見えてきました。今年度は、さまざまな理由で家から出ていくことが難しい母親や保護者へ音楽を届けるため、母子生活支援施設やシェルターなどとの関係づくりに注力しました。施設の経済状況に左右されず、本当に必要とされている場を訪れるためには、協力や協賛といった支援が必要です。今後はイベントの開催だけでなく、活動の意義を発信することにも力を入れていきたいと思います。

愛児園、母子寮、里親の会

子ども達

母親・保護者の笑顔

青葉区

育ちあいフェスタ2016「BAMBOOOM（バンブーン）」

たまプラー座まちなか
パフォーマンスプロジェクト

連絡先
URL　http://tamapro.wp.xdomain.jp/
E-mail　sodachiaitai@gmail.com
Facebook　https://www.facebook.com/tamaplaza/

団体紹介
横浜市と東急電鉄が取り組んでいる「次世代郊外まちづくり」から生まれたプロジェクト。参加者同士が活動を通じて、お互いの成長を実感することを「育ち合い」と呼び、地域コミュニティの新しいつながりや絆を深めることを目的に活動しています。

「竹の国　BAMBOOOM」の長老の登場です

会期：2016年9月25日(日)～2017年1月8日(日)
会場：たまプラーザ地域ケアプラザ、都筑民家園、横浜市立美しが丘小学校、横浜市立美しが丘東小学校、美しが丘公園、WISE Living Lab、3丁目カフェ
来場者数：921人

参加アーティスト：橋政愛・三宅まどか、スガマサミ、yuji、エンリケ・カレーラ・松木ありさ、村上季依美、Ryoukei

主催：たまプラー座まちなかパフォーマンスプロジェクト
協力：横浜市立美しが丘小学校、横浜市立美しが丘東小学校、横浜市立美しが丘中学校、たまプラーザ中央商店街、美しが丘カフェ、3丁目カフェ、東京楽竹団、都筑民家園、TAKE-G、アオイスタジオ

実施イベント

9月25日(日)	キックオフイベント
10月1日(土)、10月8日(土)	竹楽器製作ワークショップ
10月14日(金)～11月20日(日)	BAMBOOOM練習（全12回）
10月16日(日)	BAMBOOOMの集い
11月3日(木)	メイクアップワークショップ
11月20日(日)	BAMBOOOM本番
2017年1月8日(金)	BAMBOOOM打ち上げ＆振り返りの会

それぞれの得意を持ち寄って地域資源が奏でるハーモニー

地域コミュニティの新しいつながりや絆を深めることを目的に、地域住民による美しが丘公園での野外パフォーマンスと、そのためのワークショップを開催しました。公募により集まった参加者は、子育て中の母親とアクティブシニアを中心に61人。最年少は5歳、最年長は76歳です。

今年度は地域資源である竹の活用が大きなテーマです。まずは都筑民家園と、民家園で竹にまつわる活動を行うグループTAKE-Gに協力を仰ぎ、参加者と一緒に竹を切り出すところから始めました。竹楽器の専門家を招き、切り出した竹を組み合わせて楽器を作成。アーティスト指導のもとワークショップやレッスンを行うとともに、参加者同士でも意見を交わしあい、それぞれが工夫を凝らしました。話し合いを通じて、さまざまな価値観を体験していく中で住民同士がお互いに成長する。この環境こそが、地域コミュニティの醸成には必要なのです。私たちはこれを「育ちあい」と名付けています。

運営面では、それぞれが参加しやすい組織体制を目指し、管理、会計、企画、制作、広報の5つのチームにて進行しました。広報チームを作ったことで、SNSなどでの情報発信がきめ細かく迅速に行えるようになったことも大きな一歩です。さらに、美しが丘公園で行われる朝市「軽トラ元気市！」などの地域イベントと連動することにより、認知度の向上に努めました。

当日は出演者全員が白い衣装に身を包み、セリフのない音楽劇のようなパフォーマンスを繰り広げました。観客にも竹ベラを配り、一緒にリズムを奏でてもらうことで、会場全体に一体感を生みだしました。また、記録撮影は専門家のワークショップを受講した地域のボランティアスタッフが担当。作品を自分たちの手でつくりあげる喜びを知る人が増えつつあるということは大きな成果です。

今後は地域イベントを仕掛けていくことで近隣地域への拡大を狙います。また、多世代化に向けても、内容、広報、練習方法など、さらなる工夫が必要だと考えています。

手作りの竹ボラ
子どもたちは竹ボラ吹きがとって上手！

殺陣はリハーサルから真剣そのもの！

運ぶのが大変だった竹での
バンブーダンス！

フィナーレは
「たまプラーザオリジナルダンス」！

素敵な笑顔がいっぱい！

都筑区

第5回
都筑・遺跡公園・民家園アート月間

NPO法人都筑民家園管理運営委員会

連絡先
URL　http://tminkaen.org/
E-mail　tminkaen@galaxy.ocn.ne.jp
TEL　045-594-1723

団体紹介
地域市民協力により遺跡公園や文化体験施設（都筑民家園）の維持保全、及び伝統的な年中行事等を企画運営。「コミュニティアート」を通じ、文化を学び体験できる事業を後世に伝承することを目的として活動しています。

羅漢さんを彫ろう

会期：2016年8月3日（水）～10月30日（日）
会場：大塚・歳勝土遺跡公園、都筑民家園
来場者数：8,980人

参加アーティスト：渡辺尋志、ワークショップ参加者41名

主催：NPO法人都筑民家園管理運営委員会
共催：横浜市歴史博物館（博物館デビュー支援事業実行委員会）、横浜市都筑区役所
後援：都筑区ふるさとづくり委員会
協力：横浜市環境創造局、中川連合町内会、横浜市立中川中学校、横浜市立中川西中学校

実施イベント

8月3日（水）～8月5日（金）	アートワークショップ：羅漢さんを彫ろう
9月10日（土）～10月10日（月）	アートワークショップ：アートな羅漢さんを見てみよう
9月24日（土）	人形劇：さるかに合戦
10月10日（月）	アートフェスタ：アーツ＆クラフツガーデン、遺跡オーガニックマルシェ、古代文様ZAKKA
10月22日（土）～10月23日（日）	アート展示：竹のオブジェ 同時開催：レキカフェ、缶バッジWS
10月23日（日）	日本文化体験：歌舞伎を知ろう

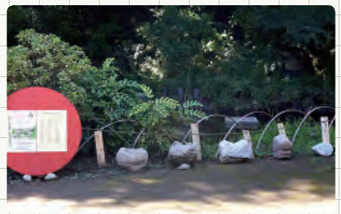
鎮魂の思いをこめた子どもたちの「羅漢さん」

今年度は横浜市歴史博物館の事業と連携し、「アート＆ヒストリー」というテーマで都筑区の地域の魅力を活かした企画を行いました。今年度の目標のひとつであった中学生を巻き込んでのイベントは、中川中学校と中川西中学校の美術部とのアートワークショップ「羅漢さんを彫ろう」というかたちで実施できました。

彫刻家の渡辺尋志さん指導のもと、自然災害への鎮魂の思いをこめて羅漢を制作。羅漢といっても、あくまでそれぞれの思い描く鎮魂のイメージが基になっているため「羅漢さん」と呼んでいます。できあがった42体の羅漢さんは都筑民家園の主庭に展示。その中には東北での津波を思い浮かべて作られた、屋根のようなかたちの作品もありました。普段の部活動では立体物をつくることは少ないため、生徒たちにとっても楽しみな夏休みの恒例行事となっているようです。顧問の先生も熱中して制作にあたり、その姿は生徒にも大きな影響を与えました。さらに学校間の交流の機会にもなっています。

同期間に、ヨコハマアートサイト対象外活動として「遺跡オーガニックマルシェ」や竹オブジェの展示、歌舞伎講座など様々なアートイベントを実施。アートワークショップと併せて、地域のにぎわいづくりに寄与しました。

活動の継続に向けては、いくつかの課題があります。中学校美術部のアートワークショップでは、時間的な制約の中での限界があり、授業の一環で実施するためには学校行事と連動させた工夫が必要となっています。横浜市が推進する小中一貫教育に基づき、近隣の学校と話し合いを進めていますが、実現には時間がかかりそうです。そして、他のイベントとの差別化やさらなる魅力向上のため、次世代が楽しめるアートイベントへ向け、活動を拡充し、継続することが求められています。今後も地域の文化拠点としての活用を通して、芸術活動が暮らしを豊かにするコミュニティアートの実現を目指します。


羅漢さんを見てみよう

歌舞伎を知ろう
アーティスト：若月仙之助 他

竹のオブジェ
アーティスト：上野雄次

遺跡オーガニックマルシェ

古代文様ZAKKA
アーティスト：持田達也・弥生

金沢区

よこはま夜のどうぶつえん ナイト金沢ZOO「ひかるどうぶつえん2016」

ひかるどうぶつえん実行委員会

連絡先
URL　http://hikarudoubutsuen.jp
E-mail　hikarudoubutsuen@gmail.com
Facebook　https://www.facebook.com/hikarudoubutsuen/

団体紹介
東京芸術大学映像研究科出身者が中心となって結成。横浜市立金沢動物園にて「動物」をテーマとするメディアアート作品の制作を行い、横浜市内のイベント等、普段アートに触れないファミリー層などへのメディアアートとの出会いの場を提供しています。

「ぼく、わたしからキリンへのビデオレター」中野晃太によるワークショップ　撮影者：梅田健太

会期：2016年7月31日(日)～8月28日(日)
会場：金沢動物園
来場者数：2,533人

参加アーティスト：池亜佐美、仲本拡史、勘貴彦、上平晃代、落合陽三、川口恵里、木村優作、桒原寿行、胡 ゆぇんゆぇん、鹿野洋平、朱彦潼、たかくらかずき、当真一茂、中野晃太、牧奈歩美、島田彩加、となしば（青木思穂・朝倉千恵子・佐土原風香・畑雄樹）、平本瑞季、円香、村本咲

主催：ひかるどうぶつえん実行委員会
共催：公益財団法人横浜市緑の協会 金沢動物園、一般社団法人ファースト・ワン
協賛：東京造形大学校友会
後援：公益財団法人 画像情報教育振興協会（CG-ARTS協会）
協力：キヤノン株式会社、キヤノンマーケティングジャパン株式会社

実施イベント

7月31日(日)	ぼく・わたしからどうぶつへビデオレターをつくろう！
8月27日(土)、8月28日(日)	『ひかるどうぶつえん2016』

動物たちと一緒に メディアアートと触れる、つながる

金沢動物園を舞台としたメディアアートや映像作品の展示も今回で3度目。夏季限定で開催される「ナイト金沢ZOO」にあわせて、動物をテーマにした作品を夜の動物園に配置しました。22組の作家が参加し、スクリーンや壁面への映像投影に限らず、VRヘッドセットやタブレットを使用した体験ができるもの、立体物と照明を組み合わせたインスタレーションなど、バラエティに富んだ作品が揃いました。当日は雨天だったため、20人のボランティアスタッフ、動物園職員とともに、展示場所を変更するなどして実施しました。その甲斐もあって親子連れを中心に2,500人を超える来場者を迎えることができ、認知度の高まりを実感しました。

今年度は新たにディレクター制度の導入と、地域との連携を目指した企画づくりを行いました。ディレクターを立てたことにより、何組かの作家に対し新作を発表するためのサポートが可能となりました。さらに、キヤノンマーケティングジャパン株式会社からの機材協力を得ることができたため、より広範囲へのプロジェクションが可能となったことも、うれしい成果です。

また地域との連携としては、金沢区内の小学校全体に広報を行い、プレイベント「ワークショップ01　ぼく・わたしからキリンへビデオレターを送ろう！」を開催。参加者とともに動物へのビデオレターを作成しました。「キリンは自分の首が長いことを知っているのかな？」という疑問からキリンの絵を描いた子どもの姿など、動物への興味とメディアアートとの出会いから作品が生まれていく印象深い時間でした。そのほか、近隣にある関東学院大学との連携事業として「教育学部山下ゼミ・お話聞かせ隊」による絵本の読み聞かせも行いました。

今後も、多くの方がメディアアートに触れる機会を生み出し、作家にとっても、普段ふれあう機会の少ない年代と出会える場、作家のネットワークづくりの場として映像文化を支えていきたいと考えています。

メインスクリーンをみつめる
撮影者：梅田健太

たかくらかずき「みんなはしる」をみんなみつめる
撮影者：梅田健太

池 亜佐美「コアラのグッバイソング」コアラたちのお見送り
撮影者：梅田健太

緑 区

第3期
みんなでワークショップ

NPO法人ぷかぷか

連絡先
URL　http://pukapuka-pan.xsrv.jp/index.php?minnnadewa-kushoppu dai3kinokiroku

団体紹介
就労継続B型事業所。利用者（主として知的障がい）数40人。スタッフ25人。パン屋、カフェ、お惣菜卵や、アートスタジオの4店舗を運営しています。

本番舞台

会期：2016年8月20日(土)～2017年1月29日(日)
会場：緑区民文化センター みどりアートパーク
来場者数：318人

実施イベント

8月20日(土)	第3期　みんなでワークショップ　第1回
9月17日(土)	第3期　みんなでワークショップ　第2回
10月15日(土)	第3期　みんなでワークショップ　第3回
11月19日(土)	第3期　みんなでワークショップ　第4回
12月17日(土)	第3期　みんなでワークショップ　第5回
2017年1月21日(木)	第3期　みんなでワークショップ　第6回
1月28日(土)	第3期　みんなでワークショップ　第7回
1月29日(日)	表現の市場

参加アーティスト：花崎攝、開発亜矢子、榎本トオル、善岡修、吉村安見子、江原望、やなせけいこ、鈴木文

主催：NPO法人ぷかぷか
共催：緑区民文化センター みどりアートパーク
協力：日本財団

みんな違うからおもしろい のびのびつくった演劇作品

今回の「みんなでワークショップ」では、半年間かけて、全7回のワークショップによる演劇作品の制作と発表を行いました。参加者は、障害のある人たちの就労支援を行うカフェベーカリーに集う人々。そこで働く人だけでなく、常連のお客さんや地域の方など40人が集まりました。ぷかぷかは、日々「障害のある人たちとはいっしょに生きていった方がいい」というメッセージをさまざまな形で発信しています。今回のワークショップでは「セロ弾きのゴーシュ・ぷかぷか版」というタイトルで、違った個性を持つ者同士が集まったからこその楽しい演劇作品を作り上げました。

ワークショップでは、まずチェロの奏者を招き、実際の演奏を聴くところからスタートしました。脚本をつくるのではなく、その場で生まれるインスピレーションからシーンを立ち上げていきます。セリフだけではなく、ダンスや歌といった表現も取り入れ、参加者の自由な発想を生かした作品づくりを行いました。音楽は生演奏。舞台美術や楽器などの小道具は手作りです。ダンスシーンでは、聴覚障害のある参加者とタイミングを合わせるためにどうしたらいいか工夫を凝らしました。難しい局面を共に乗り越えることでお互いが豊かになれる。ワークショップでは、そんな時間に何度も出会いました。

出来上がった作品を発表する場として「表現の市場」というステージを企画しました。障害のある人たちが、それぞれの方法で表現をする公演です。演劇のほか、ラップや和太鼓など全6団体がホールやロビーで発表を行いました。

半年間のワークショップと本番が終わると、参加者からは「今日で終わってしまうのがとても残念」という声が上がりました。その言葉はワークショップの場で障害のある人たちと、どんな関係が生まれていったかを端的に語っています。違った性質の人が集まっているからこその生まれた面白さや楽しさ。それは演劇づくりだけでなく、社会全体に通じる普遍的なテーマです。

日本フィルハーモニーのチェロ奏者江原さんに来てもらい、本物のチェロの演奏を聴き、チェロにさわらせてもらいました

本番舞台

アートのワークショップで作ったファッションモデルのお姉さんたちといっしょに舞台で踊った

わんどで作ったチェロが楽団の中心に

チェロとお姉さんたちで場が盛り上がる

市内全域

PICTURE THIS: 横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト

象の鼻テラスの展示会には初日から多くの人が来てくれました　提供：横浜栄写友

会期：2016年8月14日(日)～2017年1月22日(日)
会場：なか区民活動センター、横浜市技能文化会館2階（中区多文化フェスタ）、象の鼻テラス
来場者数：4,096人

参加アーティスト：平井正友、佐藤瑞代、峰岸誠一、広瀬美穂、アレッサンドロ・メリーニ、小島資治、大谷知大、大藪順子、陳瀅、宮内洋、陳珺、王浩楠、金子貴、王京華、田口真梨乃、マルコ、ジャヤ・カールティケン、エリカ・マックニール、王文鈞

主催：横浜栄写友
連携：フォトヨコハマ、第49回アジア開発銀行年次総会横浜開催
後援：公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）
協力：象の鼻テラス、株式会社カラーサイエンスラボ

実施イベント

8月14日(日)、8月28日(日)、9月11日(日)、9月25日(日)、10月23日(日)、11月13日(日)、11月27日(日)、12月11日(日)、12月25日(日)、2017年1月13日(水)	PICTURE THIS: 横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト
1月14日(土)～1月22日(日)	展示会

初日ワークショップで大桟橋へ撮影会
ピースポートを取る生徒
提供：横浜栄写友

オープニングの後の記念撮影。
提供：横浜栄写友

横浜栄写友

連絡先
URL　http://eishayu.squarespace.com/picture-this/
E-mail　picturethisjp@gmail.com
TEL　080-3954-9371

団体紹介
横浜栄写友は、栄区誕生と同時にできた写真クラブで、例会と撮影旅行を通し、年に1度展示会を開催しています。講師にプロの写真家の常磐とよ子氏を迎え、勉強会も行っています。写真が表現のツールとなることを子ども達へ伝えたいと思っています。

写真を通して培う自己肯定感と自己発見

横浜各地に住む外国につながる中高生を対象に、月2回、写真撮影の連続ワークショップを開催しました。さらに、撮影した写真の選定やキャプション制作を経て展示会を開催。言語に制限されないカメラというツールを使って自己表現の枠を広げることで、参加者のアイデンティティーを養うと共に、社会に向けて多文化共生についてのダイアローグを提供することを目指しました。

私たちはもともと1987年に創立された写真の会です。会員の高齢化に伴い、写真の魅力を次世代に伝えていきたいという思いをきっかけにこのプロジェクトを始動しました。はじめは塾やバイトで忙しい中高生の参加を募ることに苦労しましたが、結果的に、写真に興味のある11名の中高生が参加し写真を発表しました。自由に表現できる場とそれを受け止めてくれる人がいると、ティーンエイジャーはこんなに自由で面白い発想をするのかと、彼らの写真を見るたび思わされました。回を重ねるごとに、その子らしさが自然と写真にも現れ、このプロジェクトの一番の目的であった「自己肯定感と自己発見」の萌芽を感じました。

撮影だけでなく、展示する写真を選ぶことも重要なプロセスです。マンツーマンでサポートを行いながらも、決定するのは撮影者本人。大人は「なぜその写真を選んだのか」について対話を重ねることを役目としました。フィナーレとなった象の鼻テラスでの写真展には合計40点を展示。オープニングセレモニーでは、撮影者たちがそれぞれ日本語・中国語・英語で司会を担当しました。新聞やラジオで情報を発信したことが功を奏したのか、初日から市内外を問わず多くの来場があったことはうれしい成果です。

今後の課題は、活動資金の調達です。今回の実績をもとに企業の協賛を募るなど、活動を継続していくための仕組みづくりを行っていきたいと思います。

ゲストスピーカーで共同通信の
関矢記者にお越しいただきました
提供：横浜栄写友

オープニングセレモニーの司会は、
日本語・中国語・英語で生徒がしきりました　提供：横浜栄写友

ワークショップの様子
写真の評論会
提供：横浜栄写友

中区

横浜下町パラダイスまつり2016+ よこはま若葉町多文化映画祭2016

横浜下町パラダイスまつり実行委員会

連絡先
URL　http://downtownart.hama1.jp/
E-mail　artlabova@gmail.com
Facebook　https://www.facebook.com/ParadiseFes/

団体紹介
日々変わりゆく多文化な下町若葉町において、多様な価値の共存の在り方を思考すべく、町の映画館シネマ・ジャック＆ベティと連携しながら、2009年から毎年夏にプロジェクトを展開しています。

横浜の畸人宮間英次郎「帽子おじさん美術館」　撮影者：大野隆介

会期：2016年8月20日（土）～8月28日（日）
会場：横浜パラダイス会館、シネマ・ジャック＆ベティ、大岡川、ヨコハマアジアンダイニング＆バー、若葉町周辺
来場者数：1,674人

参加アーティスト：中村剛彦、来島友幸、女装アオちゃん、浜野佐知、山崎邦紀、大黒堂ミロ、坂田登、カリア・ヴァン、テン・ヴァン、青山るり子、青山ふじ子、青山珠子、太田昌国、朴英二、ニイゼキヒロミ、今井紀彰、Okui Lala 、乾信治、 小手川望、たんばりん、スズキクリ、Art Lab Ova

主催：横浜下町パラダイスまつり実行委員会
共催：シネマ・ジャック＆ベティ、Art Lab Ova
後援：横浜市中区役所、公益財団法人横浜市国際交流協会
協力：若葉町町内会、協同組合伊勢佐木町商店街、古河シネマ

実施イベント

8月20日（土）、8月25日（木）、8月27日（土）～8月28日（日）	詩人中村剛彦「若葉町コトダマップ」
8月20日（土）～8月21日（日）、	アーティスト来島友幸「神戸下町B級グルメぼっかけ焼きそば」
8月27日（土）～8月28日（日）	
8月20日（土）～8月21日（日）、8月27日（土）	アーティスト来島友幸「復活！スーパーカー消しゴムレース」
8月20日（土）～8月21日（日）	女装アオちゃん「大岡川で魚を釣って食べてみた」
8月20日（土）、8月24日（水）	浜野佐知監督＋山崎邦紀さん映画「BODY TROUBLE」トーク＆交流会
8月20日（土）～8月21日（日）	大黒堂ミロさん＋坂田登さん「フェティシズム勉強会～フロイト、ラカンの同性愛論」
8月21日（日）	モン族カリア・ヴァン＆テン・ヴァン＋ダンサー青山るり子「モン族シャーマニズム体験！」
8月21日（日）	太田昌国さんと「ウカマウ集団」トーク＆交流食事会
8月22日（月）～8月23日（火）	たまこ＋ふじこ＋るりこ「赤ちゃんお茶会あそぼう会」
8月24日（水）	朴英二監督映画「蒼のシンフォニー」トーク＆交流食事会
8月25日（木）～8月26日（金）	NY在住アーティストニイゼキヒロミ「路上アートショップ」
8月25日（木）、8月27日（土）	アーティスト・写真家今井紀彰「若葉町おもしろ心霊写真」
8月25日（木）	関東大震災後の横浜震災作文勉強会
8月25日（木）～8月26日（金）	マレーシアアーティストOkui Lalaトーク＆交流食事会
8月26日（金）	横浜古典遊技場乾信治先生「トランプでちはやふる体験」
8月26日（金）	横浜古典遊技場乾信治先生「本格闘茶体験」
8月26日（金）	演劇制作者小手川望「釜ヶ崎の幽霊」
8月26日（金）	乾先生とベリーダンスショー特別トリオ公演！@ヨコハマアジアンダイニング＆バー（飲食代実費）
8月27日（土）	横浜の畸人宮間英次郎「帽子おじさん美術館」
8月27日（土）	ナゾの男たんばりん＆スズキクリ「ワンダフル・ドアーズライブ」
8月27日（土）	ダンサー青山るり子＋モン族テン・ヴァン「あるモン族家族のベトナム戦争難民記散歩」
8月27日（土）	NY在住アーティストニイゼキヒロミ「アーティストとして28年間NYに暮らして」
8月28日（日）	フィナーレ＊みんなで若葉町おさんぽツアー
8月20日（日）～8月28日（日）	「鏡は嘘をつかない」「シアター・プノンペン」「国際市場で逢いましょう」「蒼（そらいろ）のシンフォニー」「福岡アジア美術館セレクション」「マダム」「BODY TROUBLE 男が女になるビョーキ?」「ウカマウ」「地下の民」「ソング・オブ・ザ・シー」

いろんな文化が混ざるまちで夏休みを一緒に過ごす

まちの映画館を拠点に、映画を通じて身近な世界を考える「よこはま若葉町多文化映画祭」と、アーティストが映画館とまちをつなぐ「横浜下町パラダイスまつり」を開催しました。今年度は、近隣に住む外国につながる子どもたちと遊ぶプロジェクトを中心に企画を進めました。

映画館とまちをつなぐ試みとして、取材によって制作した近隣のお店紹介映像を映画の幕間で公開し、店主たちの写真を展示。さらに飲食店マップを配布することで、若葉町の多国籍な店を紹介することができました。上映後には、映画監督などを招いての勉強会や交流会を開催。映画祭を通して、より深い多文化社会への理解を促す機会となりました。

拠点である横浜パラダイス会館は、さまざまな背景を持つ若葉町の子どもたちにとって、学校でも家庭でもない居場所として着実に定着してきています。会期中、子どもたちは写真家とのワークショップでオリジナル心霊写真を制作したり、大岡川で魚釣りをしたりと毎日多彩な体験をすることができました。また、アーティストによるB級グルメプロジェクトが、昼食を食べられない子どもたちの「こども食堂」企画になっていたことはとても興味深い出来事です。そのほか、子どもたちのうちの何人かは、「外国ゆかりの人ご招待」枠で、生まれて初めて映画館での鑑賞を体験。支援事業と銘打たなかったからこそ、自然と支援を必要としている子どもに届いたのかもしれません。

この企画を通じて、どのような状況でも無意識に「お互いを受け入れあう」ことを子どもたちが感じることができれば、このまちの多文化共生の一歩につながっていくのではないかと、より実感しました。将来的には、ここで遊んだ子どもたちが成長して、下の世代と交流する流れが生まれることを期待しています。そのためにも、このプロジェクトを今後も細く長く継続してゆく必要性を感じています。

横浜パラダイス会館
撮影者：大野隆介

横浜古典遊技場乾信治先生
「闘茶体験」
撮影者：大野隆介

女装アオちゃんゲリラ企画
「空手チョップスイカ割り」
撮影者：大野隆介

西区

横浜・藤棚シネマ商店街

横浜・藤棚シネマ商店街実行委員会

連絡先
URL　http://cinema1900.wix.com/home#!blank-21/uh5y3
E-mail　info@cinema1900.yokohama
TEL　045-548-8712

団体紹介
本会は、当イベントを計画・実行することを目的として結成されました。実行委員は映画という総合アートを共通項として、地域の活性化、商店街の復興を願う藤棚商店街店舗有志並びに、地域外の映画愛好者によって構成されています。

無声映画「月世界の女」　活弁・生演奏付上映会　（演者）

会期：2016年7月18日(月)～7月24日(日)
会場：シネマノヴェチェント、藤棚商店街16店舗、萬歳湯
来場者数：5,268人

参加アーティスト：山下賢章、中野昭慶、箕輪克彦、檜垣紀六、檀鼓太郎、城田有子

主催：横浜・藤棚シネマ商店街実行委員会
共催：西前中央商店会、藤棚一番街共同組合
後援：横浜市西区役所
協力：神奈川県商業流通課、にしく市民活動支援センター にしとも広場、CREATIVE HOUSE オフィス63、株式会社ビーモ、ハブシステムズ有限会社、株式会社ひかり社、株式会社ケンゾウ、株式会社シネマノヴェチェント、有限会社鈴木映画

実施イベント

7月18日(月)～7月24日(日)	檜垣紀六映画ポスター展
7月18日(月)～7月24日(日)	「激動の昭和史　沖縄決戦」ワンコイン興行
7月18日(月)	檜垣紀六氏トークショー
7月18日(月)	35ミリ映写技師体験講座
7月23日(土)	無声映画「月世界の女」活弁・生演奏付上映会
7月24日(日)	「激動の昭和史　沖縄決戦」中野昭慶監督＆山下賢章監督トークショー付上映会

生活の場で映画を楽しむ スクリーン以外の映画体験

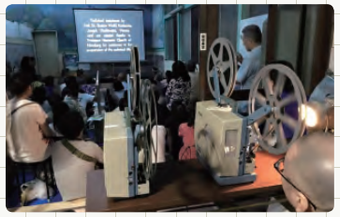
観て！買って！＜夏＞の横浜・藤棚商店街を楽しもう！を合言葉に、通称「藤棚商店街」を会場とし、映画という総合アートを共通項として地域の活性化を図るプロジェクトを行いました。商店街の中にある小さな映画館・シネマノヴェチェントをメインに、老舗商店や立派な銭湯など古き良き昭和の風情を残す商店街で昭和の名作映画ポスター展示や、映画上映を行いました。

イベント中、商店街には映画広告図案師・檜垣紀六さんオリジナルデザインの「シネマアートフェスタ」ののぼり旗がはためき、それぞれの店舗には同氏による映画ポスターが全125枚飾られました。花屋には恋愛映画、葬儀社にはホラー映画といったように、各店舗の特色に合わせて作品を選ぶことをきっかけとし、プロジェクトを通して商店街との関係を築いていきました。いつもとは少し違ったまちの様子に、道行く人々が懐かしがり足を止めている姿が印象的でした。

ポスターを鑑賞しながら商店街に親しんでもらうため、スタンプラリーも実施しました。いくつかのスポットでは、その店舗ならではのサービスが受けられるということもあり、スタンプラリーを楽しみながら自然に商店街の人々とコミュニケーションをとるという流れが生まれました。シネマノヴェチェントでのワンコイン上映「激動の昭和史　沖縄決戦」では、目標の動員数を達成。好評を博しました。同会場で開催した映写技師講座、トークショーもほぼ定員に達し、見学者も多かったため、参加型イベントの需要を感じました。

昭和22年創業の銭湯・萬歳湯での無声映画鑑賞会には地域住民を中心に80人が来場。初めて無声映画を見たという人も多く、大盛況となりました。継続を希望する声も多く、今後は鑑賞環境の整備が課題です。また、メインイベントとなるポスター展に関してはより多くの参加店を募ることを目標とし、商店街を上げて活気を演出できればと考えています。

檜垣紀六映画ポスター展：檜垣紀六先生の製作秘話



無声映画「月世界の女」　活弁・生演奏付上映会（場内）

檜垣紀六映画ポスター展：ジェムフラワーズ（ラブロマンス）

35ミリ映写技師体験講座

「激動の昭和史　沖縄決戦」中野昭慶監督＆山下賢章監督トークショー

港北区

障害者も健常者も分け隔てなく生きた芸術を目指して拡げようリビングアートネットワーク

障害者も健常者も分け隔てなく生きた芸術を目指して拡げようリビングアートネットワーク

連絡先
URL　http://www.livingart.red
E-mail　info@.livingart.red

団体紹介
様々なジャンルのアーティストと知的障害者が主体となり、港北区を中心に、障害者芸術の素晴らしさを伝え、健常者や障害者の枠組みを乗り越え、その成果を社会に還元します。参加者は表現を楽しみ、コミュニケーション能力や身体表現のクオリティを高めています。

リビングダンスパーティの様子 撮影者：リビングアートネットワーク撮影部

会期：2016年7月6日（水）～2017年1月28日（土）
会場：横浜にぎわい座のげシャーレ、長者スタジオ、ともだちの丘
来場者数：1,016人

参加アーティスト：黒沢美香、河下亜紀、今井尋也、小澤綾子、MICHI、TOMOSUKE、はっぱオールスターズ、劇団かたるべー座、ともだちの丘えんげきぶ、小池健太、吉松章、澤田高綱、田中博士、江原顕、竹本真紀

主催：リビングアートネットワーク
共催：NPO法人げんき、リビングアートフェスティバル実行委員会
協賛：株式会社まちふく
協力：港北区社会福祉協議会、港北区作業所連絡会、横浜市障害者地域活動ホーム連絡会　大倉山商店街振興組合、長者スタジオ、横浜にぎわい座、メガロシアター、ステージオフィス横浜

実施イベント

11月3日（木）	リビングダンスパーティーvol.1
11月27日（日）	リビングアートシンポジウムvol.1
12月18日（水）	リビングアートシンポジウムvol.2
12月22日（木）	リビングアートシンポジウムvol.3
1月9日（月）	リビングアートシンポジウムvol.4
1月28日（土）	リビングアートシンポジウムvol.5
12月22日（木）	リビングアートフェスティバルvol.1
1月28日（土）	リビングアートフェスティバルvol.2
7月29日、8月26日、9月6日、10月14日、1月25日、12月9日、1月27日（金）	ゼロボディワークショップダンス
7月6、7月13日、7月27日、8月3日、8月24日、8月31日、9月7日、9月14日、9月28日、10月5日、10月12日、10月26日、11月2日、11月9日、11月30日、12月7日、12月14日、12月21日、1月11日、1月18日、1月25日（水）	ゼロボディワークショップ演劇

ありのままで生きるという芸術活動のかたち

今年度は「ゼロボディワークショップ」の定期開催と「リビングアートシンポジウム」「リビングアートフェスティバル」、そして今回初の試み「リビングダンスパーティ」と4つの事業を実施しました。

「ゼロボディワークショップ」では、障害者地域活動ホームを会場に、ダンス部門と演劇部門を合わせて42回開催。障害の有無に関わらず、互いの表現が自己と他者によって認められる時間と空間を体験する機会となりました。

「リビングアートシンポジウム」では、「障害のある人が差別されずに生活するためにアートに何ができるか」をテーマに、アートと福祉の可能性や現在の問題点など深い論議を一般公開しました。相模原障害者施設殺傷事件や障害者施設の建設反対運動に始まり、障害者の恋愛事情や寿町の高齢化など具体的な事由を通して、現代における実践的な福祉とアートの可能性を探りました。今は、その記録を公開する手法を考えています。

毎年恒例となりつつある「リビングアートフェスティバル」では、横浜市内で活動する6つの福祉施設による作品を発表。さらにエイブルアートと関わりの深いアーティストをゲストに招き、ワークショップと作品発表を行いました。ダンス・演劇・音楽・お笑いなどバラエティー豊かなステージパフォーマンスは、今回も大盛況のうちに幕を閉じました。

また、初めて開催した「リビングダンスパーティ」では、障害者も健常者も分け隔てなく踊って楽しめる場所を演出しました。華やか照明の中、懐かしいポップソングやダンスミュージックが大音量で流れ、めいめいが自由に踊ります。最後には車椅子の参加者も交え、大きな輪になって「ジェンカ」を楽しみました。

4つの事業が有機的に連携することで、身体表現によるアートによってさまざまな枠組みが取り払われ、地域との連携を深める機会となりました。今後も地域や家庭と密着して事業を進めていきたいと考えています。

聾者のダンス
撮影者：リビングアートネットワーク撮影部

ゼロボディワークショップダンス編
2016-2017
撮影者：リビングアートネットワーク撮影部

筋ジストロフィーシンガーソングライター
撮影者：リビングアートネットワーク撮影部

ヨコハマアートサイト2016をふりかえる

Look back over the Yokohama Artsite 2016

横浜市地域文化サポート事業「ヨコハマアートサイト」は、
地域課題の解決につなげる文化芸術活動をサポートするため、
文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの
活性化と結びつける文化芸術活動や、
横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を
広く公募し、支援する事業です。

2016
YOKOHAMA
Art Site

4月
5月

選考＆採択

選考委員

佐藤李青（公益財団法人 東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 プログラムオフィサー）
鈴木一郎太（株式会社大と小とレフ 取締役）
田中玲子（認定特定非営利活動法人トリトンアーツネットワーク ディレクター）
松本道雄（認定特定非営利活動法人 市民セクターよこはま 理事）
吉野さつき（学校法人 愛知大学 文学部 人文社会学科 准教授）

外部の有識者で構成されたヨコハマアートサイト2016選考委員会により選考を行いました。

実施区	団体名・事業名	採択額
金沢区	アーティストネットワーク＋コンパス 会社まるごとギャラリー2016	¥400,000
都筑区	特定非営利活動法人アーモンドコミュニティネットワーク アーモンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト	¥240,000
戸塚区、中区	認定NPO法人あっちこっち 子どものためのアート・音楽・ダンスを いっぺんに楽しむわくわくワークショップシリーズVol.5	¥442,000
中区	居場所「カドベヤで過ごす火曜日」 カドベヤ・オープンDAY-つどおう・かたろう・つながろう	¥250,000
中区	映像グループローポジション 映像グループローポジション10周年記念・ 特集上映「ハマのドキュメンタリー映画作家たち」	¥460,000
南区	大岡川アートプロジェクト実行委員会 大岡川アートプロジェクト「光のぷろむなぁど2016」	¥500,000
中区	NPO法人Offsite Dance Project 本牧アートプロジェクト2016	¥1,500,000
神奈川区	神奈川区魅力さかせ隊 みんなのトンネルプロジェクト	¥300,000
金沢区	金沢文庫芸術祭実行委員会 第18回金沢文庫芸術祭	¥400,000
西区	紙芝居文化推進協議会 第17回手づくり紙芝居コンクール	¥300,000
緑区	GROUP創造と森の声 森ラボ2016「横浜の森美術展9」	¥500,000
神奈川区、港北区	ぐるぐるはためきアート展実行委員会 ぐるぐるはためきアート展　白楽・妙蓮寺編	¥400,000
栄区	さかえegaoプロジェクト さかえegaoフェスティバル	¥200,000
栄区	さかえdeつながるアート さかえdeつながるアート2016	¥250,000
市内全域	新潮劇院/一般財団法人　日本京劇振興協会 こども京劇プロジェクト	¥500,000
中区	特定非営利活動法人スローレーベル SLOW ACADEMY 実践シリーズ&ヨコハマ・ パラトリエンナーレ準備連続講座	¥2,000,000
中区、金沢区、南区、保土ケ谷区	NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと こころに響く打楽器作っちゃおう	¥600,000
青葉区	たまプラー座まちなかパフォーマンスプロジェクト 育ちあいフェスタ2016「BAMBOOOM（バンブーン）」	¥200,000
都筑区	NPO法人都筑民家園管理運営委員会 都筑・遺跡公園・民家園アート月間2016	¥100,000
金沢区	ひかるどうぶつえん実行委員会 よこはま夜のどうぶつえん ナイト金沢ZOO 「ひかるどうぶつえん2016」	¥1,000,000
緑区	NPO法人ぷかぷか みんなでワークショップ	¥600,000
市内全域	横浜栄写友 PICTURE THIS：横浜インターナショナルユースプロジェクト	¥1,132,900
中区	横浜下町パラダイスまつり実行委員会 横浜下町パラダイスまつり2016＋ よこはま若葉町多文化映画祭2016	¥700,000
西区	横浜・藤棚シネマ商店街実行委員会 横浜・藤棚シネマアートフェスタ2016	¥1,500,000
港北区	リビングアートネットワーク 障害者も健常者も分け隔てなく生きた芸術を目指して 拡げようリビングアートネットワーク	¥1,000,000

キックオフ・ミーティング

参加団体による活動紹介と、事務局より1年間の流れや各種手続きについての説明を行った。

会　場：YCC ヨコハマ創造都市センター 3F

5月27日（金）

事業実施前ヒアリング

参加団体と事務局が個別に面談し、事業実施に向けての情報共有を行った。

6月

季刊ヨコハマアートサイト Vol.008発行

特集
「川からはじまる」

7月

ヨコハマアートサイト2016 事業開始

季刊ヨコハマアートサイト Vol.009発行

特集
「よりみち映画館」

9月

ヨコハマアートサイトラウンジVol.10
「海外における障害とアートの今を学ぶ」

横浜の地域文化を考える・交流する場としてのアートサイトラウンジ。連続シンポジウムその1。アジアやブラジルなど、諸外国における「障害とアート」取組の視察報告とディスカッション。参加団体のひとつである特定非営利活動法人スローレーベルとの共同主催。

ゲスト：田中未知子（瀬戸内サーカスファクトリー代表）、難波祐子（国際交流基金文化事業部企画役）、栗栖良依（ヨコハマ・パラトリエンナーレ総合ディレクター）
会場：象の鼻テラス

10月15日（土）

11月4日（金）

ヨコハマアートサイトラウンジVol.11
「子どもがアートと育つ場所」

連続シンポジウムその2。特定非営利活動法人打楽器コンサートグループ・あしあと、フリースペースみなみの取り組みを通じて、子どもが育つ過程でのアートの意義を考えるトークセッション。

ゲスト：奥田宏明（特定非営利活動法人教育支援協会南関東　フリースペースみなみ）、半谷麻意子（NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと）、池野ひとみ（NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと）
会場：横浜市技能文化会館

事業実施後ヒアリング

参加団体と事務局が個別に面談し、プロジェクトを実施してみての成果や課題などを共有・フィードバックを行った。

11月12日（土）

連続シンポジウムその3

アーティストネットワーク+コンパスの活動経緯を中心に、アーティストや企業などによる工場とアートワークのこれからについてのパネルディスカション。

ゲスト：秋山桂子（山陽印刷株式会社代表取締役／アーティストネットワーク+コンパス代表）、坪倉伸明（株式会社坪倉興業代表取締役）、田中清隆（アーティスト／アーティストネットワーク＋コンパスプロデューサー）、本多竜太（関東プリンテック株式会社常務取締役／PIAフェスタ実行委員メインプロデューサー）

会場：山陽印刷株式会社

12月

季刊ヨコハマアートサイト Vol.010発行

特集「子どもが主役」

1月

ヨコハマアートサイト2016 事業終了

2017

2月16日（木）

ヨコハマアートサイトラウンジVol.13
「アーツカウンシルと地域文化」

芸術文化を支えるために、全国各地で設立されているアーツカウンシル。大阪や東京でのアーツカウンシルの取組が、地域文化にどのように関わりを持っているのかに着目し、横浜の地域文化について考えるトークセッション。

ゲスト：佐藤千晴（大阪アーツカウンシル　統括責任者）、佐藤李青（公益財団法人 東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京 プログラムオフィサー）、杉崎栄介（公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団 広報ACYグループ担当リーダー プログラム・オフィサー）

会場：BUKATSUDOホール

3月

季刊ヨコハマアートサイト Vol.011発行

特集
「ものづくりの場所から」

3月18日（土）

ヨコハマアートサイト2016報告会
「地域文化を考える3時間」

各団体による事業報告と、その中で見えてきた横浜における地域文化の今を探るトークセッション。終了後には交流会を設け、参加団体が共に一年間を振り返った。

ゲスト：松本道雄さん（認定非営利活動法人市民セクターよこはま　副理事長）、松尾子水樹（神奈川県立近代美術館　普及課学芸員）

会場：横浜美術館円形フォーラム

ヨコハマアートサイト

横浜の地域文化を考える・応援する

季刊ヨコハマアートサイトとは

「横浜の地域文化を考える・応援する」をテーマに、ヨコハマアートサイトの広報プログラムの一環として、参加団体の取組を中心に、横浜の地域文化に焦点をあて、各地域での取組を幅広く紹介する冊子です。

※区役所や市内外の文化施設を中心に配架しています。バックナンバーをご希望の方はヨコハマアートサイト事務局へご連絡ください。

だれかとつながる

アートに触れる

たくさんの人へ届ける

Vol. 001 特集「となりの多文化」

仲通り道じゅねー（鶴見区）
NPO法人多文化まちづくり工房（泉区）
横浜下町パラダイスまつり（中区）　ほか

レポート
アートサイトラウンジvol.1「アート森フォーラム」（緑区）

コラム　もしもし、そちらの様子はどうですか？
浜松の暮らしに滲むアートの風景／鈴木一郎太

コラム　地域文化のかがり火
第一回　住宅街に現れる渚～CoZAの間（港南区）

事務局うろうろ日記
蛇も蚊も祭（鶴見区）、市民のトリエンナーレ（中区）
さかえdeつながるアート（栄区）
金沢文庫芸術祭（金沢区）　ほか

Vol. 002 特集「境内につどう」

保土ヶ谷こども歌舞伎（保土ケ谷区）
金沢文庫芸術祭（金沢区）
浅間神社（西区）
カフェ・デラ・テラ（戸塚区）　ほか

レポート
アートサイトラウンジvol.2「アートでであう地域の多文化」（中区）

コラム　もしもし、そちらの様子はどうですか？
地域に暮らし人々の物語によりそうこと／恵志美奈子

コラム　地域文化のかがり火
第二回　誰でも入れる街の空き地～ハッピースクエア（保土ケ谷区）

事務局うろうろ日記
さくらプラザ（戸塚区）、本牧アートプロジェクト（中区）、
瀬谷フェスティバル（瀬谷区）、都筑・遺跡公園・民家園アート月間（都筑区）　ほか

Vol. 003 特集「さかい目を歩く」

エイブルフレンドフェスティバル（中区）、カフェベーカリー・ぷかぷか（緑区）
障害者スポーツ文化センター横浜ラポール（港北区）
旭区地域生活支援拠点ほっとぽっと（旭区）　ほか

レポート
アートサイトラウンジvol.3「風土とアート」（南区）
アートサイトラウンジvol.4「ダンス教育ラボ」（神奈川区）

コラム　もしもし、そちらの様子はどうですか？
働く女性が、若者が、まちの仲間になる風景／石井大一朗

コラム　地域文化のかがり火
第三回　コミュニティも落語家も育む～栄にぎわい寄席

事務局うろうろ日記
表現の市場（緑区）、本牧アートプロジェクト（中区）、反町地域ケアプラザ（神奈川区）
サイト・イン・レジデンス2014「環世界」（泉区）、居場所「カドベヤで過ごす火曜日」（中区）　ほか

Vol. 004　特集「本がつなぐ地域」

東寺尾図書館（鶴見区）、おむすび文庫（栄区）
アマガサ印刷所（鶴見区）、有隣堂（戸塚区）、会社まるごとギャラリー2015（金沢区）
第16回手作り紙芝居コンクール（西区）　ほか

レポート
アートサイトラウンジvol.5「参加するアート」（中区）
ヨコハマアートサイト2015キックオフ・ミーティング（西区）

コラム　もしもし、そちらの様子はどうですか？
土地の記憶と時間と想いを紡ぐ術／佐藤李青

コラム　地域文化のかがり火
第四回　古民家に流れる凛とした時間～山の上ギャラリー（戸塚区）

事務局うろうろ日記
喫茶へそまがり（西区）、湯花神楽（戸塚区）、まったり家（港南区）
横浜農協田奈支店春まつり（青葉区）、東京園（港北区）　ほか

Vol. 005　特集「商店街のアートなお店」

チエン堂（中区）、シネマノヴェチェント（西区）
カフェレストランいち（神奈川区）
カプカプ竹山（緑区）　ほか

レポート
アートサイトラウンジvol.6
「白根通り作曲プロジェクト」キックオフプロジェクト（旭区）

コラム　もしもし、そちらの様子はどうですか？
子どもの最初の音楽との幸せな出逢い／田中玲子

コラム　地域文化のかがり火
第五回　自然とアート、贅沢な出会い～JIKE STUDIO（青葉区）

事務局うろうろ日記
長屋門公園（瀬谷区）、本郷台アオソラマルシェ（栄区）
浜マーケット（磯子区）、「パークは僕らの秘密基地」プロジェクト（戸塚区）

Vol. 006　特集「まちなみを行く」

サイト・イン・レジデンス2015「環世界」（泉区／戸塚区）
AOBA+ART（青葉区）
横浜シティガイド協会（南区）
演劇クエスト（中区）　ほか

レポート
アートサイトラウンジvol.7
「遺跡公園、都筑民家園とコミュニティーアート」（都筑区）

コラム　地域文化の風景
いまに残る長津田宿から、あたらしい文化圏をつくりたい／藤井ゆずる

事務局うろうろ日記
新そば祭り／そばの花ふれあい祭り（瀬谷区）
金沢文庫芸術祭（金沢区）
『こども花人間まちを元気に』プロジェクト（都筑区）
横浜矯正展（港南区）

Vol. 007　特集「居場所で出会う」

カドベヤ（中区）
横浜市青少年交流センター／ふりーふらっと野毛山（西区）
見守りの家（瀬谷区）　ほか

レポート
アートサイトラウンジvol.8
「歩くことでまちなみがみえてくる」（戸塚区）

コラム　地域文化の風景
臨海緑地公園から眺める磯子の海の記憶と毎日の暮らし／中村牧

事務局うろうろ日記
スマートイルミネーションいずみ　光と影の動物園（泉区）
本牧アートプロジェクト2015（中区）
みんなでワークショップ（緑区）
さかえdeつながるアート（栄区）

Vol. 008　特集「川からはじまる」

境川中島橋（瀬谷区）
大岡川アートプロジェクト（南区）
元木琴平社（泉区）
工業技術支援センター（金沢区）　ほか

レポート
アートサイトラウンジvol.9「居場所、まちのなかで（中区）」
ヨコハマアートサイト2015報告会（中区）

コラム　地域文化の風景
文化の中継役として同時多発の動きを緩やかに見つめる／田中啓介

事務局うろうろ日記
たまプラー座まちなかパフォーマンスプロジェクト（青葉区）
横浜都市発展記念館「横浜山下公園・海辺に刻まれた街の記憶」（中区）
青葉区民謡民舞大会（青葉区）
みどりぶんぶんマルシェ（緑区）

Vol. 009　特集「よりみち映画館」

横浜・藤棚シネマアートフェスタ2016（西区）
横浜シネマリン（中区）
ヨコハマらいぶシネマ（中区）
福寿祁久雄氏　ほか

レポート
ヨコハマアートサイト2016キックオフ・ミーティング（中区）

コラム　地域文化の風景
身近な場所で聞くコンサートで繋がるアートとまち／永田美幸

事務局うろうろ日記
八坂神社お札まき（戸塚区）
横浜市民ギャラリー―あざみ野「あざみ野こどもぎゃらりぃ2016」（青葉区）
横浜市歴史博物館「よみがえる学校の文化財」展（都筑区）
スタジオクロちゃん（港南区）

Vol. 010　特集「子どもが主役」

こころに響く打楽器つくっちゃお（旭区）
子育ては爆発だぁ（中区）
横浜こどものひろば（西区）
澤岡泰子氏　ほか

レポート
アートサイトラウンジvol.10-12（中区ほか）

コラム　地域文化の風景
横浜の「多文化共生」ふるさとが違う人々をつなぐアートの場所／柏木華菜

事務局うろうろ日記
アーモンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト（都筑区）
横浜の森美術展（緑区）
みんなのトンネルプロジェクト（神奈川区）
たまプラー座まちなかパフォーマンスプロジェクト（青葉区）

Vol. 011　特集「ものづくりの場所から」

会社まるごとギャラリー（金沢区）
鞴（ふいご）祭り（青葉区）
寺家木工舎（青葉区）
メリ～ゴーランド研究所（中区）　ほか

レポート
アートサイトラウンジvol.13「アーツカウンシルと地域文化」（西区）

コラム　地域文化の風景
まちに溶け込むパブリックアート
長い歴史のうえに根付く住民とアートの関係／沼部勝

事務局うろうろ日記
都筑民家園（都筑区）
PICTURE THIS:横浜インターナショナルユースプロジェクト（中区）
弁天橋駅前イルミネーション（鶴見区）
第三回表現の市場（緑区）